

Sun™ ONE Application Server 7 for Additional Platforms リリースノート

このリリースノートには Sun™ Open Network Environment (ONE) Application Server Standard Edition 製品のバージョン7のリリース時における重要な情報が含まれています。新しい機能および拡張機能、インストール時の注意、既知の問題、および最近見つかったその他の問題点が記載されています。Sun ONE Application Server 7 Standard Edition 製品を使用する前に、このリリースノートと関連マニュアルをお読みください。

本書の構成は次のとおりです。

- Sun ONE Application Server 7 の新機能
- Sun ONE Application Server 7 のプラットフォーム
- マニュアル
- ソフトウェアおよびハードウェアの要件
- 既知の問題と制限事項
- 問題の報告方法
- 詳細情報
- 改訂履歴

Sun ONE Application Server 7 の新機能

Sun ONE Application Server 7、Standard Edition の新機能については、『Sun ONE Application Server の新機能』(Part No. 816-6477-10)を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv?l=ja#hic>

Sun ONE Application Server 7 のプラットフォーム

Sun ONE Application Server 7 Standard Edition でサポートされているプラットフォームについては、『Sun ONE Application Server プラットフォーム』(Part No. 816-6478-10)を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv?l=ja#hic>

マニュアル

Sun Microsystems 製品の全マニュアルは、次の URL から参照できます。

<http://docs.sun.com/>

この節では、次のトピックを取り上げます。

- Sun ONE Application Server 7 のマニュアル
- 関連マニュアル

Sun ONE Application Server 7 のマニュアル

Sun ONE Application Server 7 Standard Edition には、完全なマニュアルセットが付属しています。

注

一部、Sun ONE Application Server 7 Standard Edition の初期リリース以降に掲載されたマニュアルがあります。本書に記載したマニュアルがサン の文書サイトで見つからない場合、そのマニュアルは後で掲載された可能性 があります。

重要な問題が見つかるなどしてマニュアルが改訂された場合、改訂版は Sun の文書サイトに掲載されます。最終更新日は、HTML 版マニュアルの 目次の右上に表示されます。

Sun ONE Application Server 7 のマニュアルは、次の URL から参照できます。

<http://docs.sun.com/db/coll/1044.1?l=ja>

Sun ONE Application Server コレクションの各マニュアルの Part No. と簡単な説明を 次に示します。

- 『製品の概要』 - (Part No. 816-6476-10) Sun ONE Application Server を初めて使用 する方と、既に以前のバージョンの製品をご利用になっている方を対象としてい ます。

- 『アーキテクチャの概要』- (Part No. 816-6479-10) 図表を織り交ぜながらサーバーアーキテクチャについて解説します。さらに、Sun ONE Application Server アーキテクチャの利点について説明します。
- 『新機能』- (Part No. 816-6477-10) iPlanet Application Server や iPlanet Web Server 6.x と比較しながら、Sun ONE Application Server 7 の高度な機能について説明します。
- 『プラットフォーム』- (Part No. 816-6478-10) サポート対象のハードウェア、オペレーティングシステム、JDK、JDBC、RDBMS を一覧します。
- 『入門ガイド』- (Part No. 817-0599-10) Sun ONE Application Server 7 の基本的な使用方法について説明します。初期開発を行う開発者向けの内容ですが、製品評価の担当者が参考にできる情報も含まれています。
- 『インストールガイド』- (Part No. 817-0600-10) Sun ONE Application Server とそのコンポーネント (サンプルアプリケーション、管理インタフェース、Sun ONE Message Queue) のインストール方法について説明します。
- 『サーバーアプリケーションの移行および再配備』- (Part No. 817-0603-10) 新しい Sun ONE Application Server プログラミングモデルに従ってアプリケーションを移行する方法について説明します。特に、iPlanet Application Server 6.x、Netscape Application Server 4.0 からの移行について詳しく取り上げます。移行例も付属しています。
- 『開発者ガイド』- (Part No. 817-0602-10) 開発者向けマニュアルの中で最も重要なマニュアルです。サーブレット、Enterprise JavaBeans™ (EJBs™)、JavaServer Pages (JSP)、各種 J2EE コンポーネントについて規定した Java のオープンスタンダードモデルに準拠し、Sun ONE Application Server 上で動作する J2EE アプリケーションの基本的な作成方法について説明します。J2EE アプリケーションの設計、セキュリティ、配備、デバッグ、ライフサイクルモジュールの作成方法などについて取り上げます。Sun ONE Application Server のさまざまな用語について解説する用語集も付属しています。
- 『Web アプリケーション開発者ガイド』- (Part No. 817-0604-10) J2EE アプリケーションにおけるサーブレットや JavaServer Pages (JSP) の使用方法と、HSTML および CGI の使用方法について説明します。結果キャッシュ機能、JSP の事前コンパイル、セッション管理、セキュリティ、配備などについて取り上げます。
- 『Enterprise JavaBeans 開発者ガイド』- (Part No. 817-0605-10) Sun ONE Application Server 環境におけるエンタープライズ Bean の開発および配備について説明します。コンテナ管理持続性、読み取り専用 Bean、エンタープライズ Bean に関連付けられた XML ファイルや DTD ファイルなどについて取り上げます。
- 『Developer's Guide to J2EE Features and Services』- (Part No. 817-2787-07) Java Database Connectivity (JDBC)、Java Naming and Directory Interface (JNDI)、Java Transaction Service (JTS)、Java Message Service (JMS)、JavaMail、リソース、およびコネクタなどの J2EE 機能について説明します。

- 『Developer’s Guide to NSAPI』 - (Part No. 816-7154-10) NSAPI プラグインの作成方法について説明します。
- (英語のみ) 『Developer’s Guide to Web Services』 - (Part No. 816-7152-10) Sun ONE Application Server 環境における Web サービスの開発および配備について説明します。
- (英語のみ) 『Developer’s Guide to Clients』 - (Part No. 817-0462-10) Sun ONE Application Server で使用可能なクライアントの開発および配備について説明します。JMS クライアント、CORBA クライアント、アプリケーションクライアントコンテナ (ACC)、クライアント XML および DTD について取り上げます。(英語のみ)
- 『管理者ガイド』 - (Part No. 816-0601-10) 管理者向けマニュアルの中で最も重要なマニュアルです。管理インタフェースまたはコマンド行インタフェースを使った Sun ONE Application Server サブシステムと各種コンポーネントの設定、管理、配備について説明します。Sun ONE Application Server のさまざまな用語について解説する用語集も付属しています。
- 『管理者用設定ファイルリファレンス』 - (Part No. 816-6480-10) server.xml ファイルをはじめとする Sun ONE Application Server 設定ファイルの内容について説明します。
- 『セキュリティ管理者ガイド』 - (Part No. 816-6482-10) Sun ONE Application Server 操作環境のセキュリティの設定および管理について説明します。一般的なセキュリティ、証明書、および SSL/TLS 暗号化に関する情報など。HTTP サーバーベースのセキュリティについても説明
- 『J2EE CA SPI Administrator’s Guide』 - (Part No. 816-6481-10) Sun ONE Application Server 環境の JCA SPI 実装機能の設定および管理について説明します。管理ツール、プーリングモニター、JCA コネクタの配備、サンプルコネクタとサンプルアプリケーションなどについて取り上げます。
- 『パフォーマンスチューニングガイド』 - (Part No. 816-6485-10) Sun ONE Application Server を使ってパフォーマンスを改善する方法と、その必要性について説明します。
- 『Error Log Reference』 - (Part No. 816-6483-10) Sun ONE Application Server の全エラーメッセージについて解説します。
- コマンド行インタフェースのマニュアルページ - コマンド行インタフェースで実行する全コマンドについて解説します (XML 形式、英語のみ)。
- ユーティリティのマニュアルページ - Sun ONE Application Server の全ユーティリティコマンドについて解説します (XML 形式、英語のみ)。
- 管理 GUI のオンラインヘルプ - Sun ONE Application Server のグラフィカルな管理インタフェースのコンテンツ型オンラインヘルプです。

- 『Sun ONE Studio 4 Enterprise Edition for Java with Application Server 7 チュートリアル』- Sun ONE Studio 4 を Sun ONE Application Server とともに使用する方
法について説明します。
- Sun ONE Application Server Studio のオンラインヘルプ - Sun ONE Studio 4 を統
合した Sun ONE Application Server のコンテンツ型オンラインヘルプです。

関連マニュアル

Sun ONE Application Server に統合された Sun ONE Message Queue (iPlanet Message Queue) サブシステムには、独自のマニュアルセットが存在します。次の URL を参照してください。

<http://docs.sun.com/db/prod/s1.s1msgqu?l=ja#hic>

ソフトウェアおよびハードウェアの要件

Sun ONE Application Server 7, Standard Edition のプラットフォームの要件については、『Sun ONE Application Server プラットフォーム』(Part No. 816-6478-10) を参照してください。URL は次のとおりです。

<http://docs.sun.com/db/prod/slappsrv?l=ja#hic>

次の表は、Sun ONE Application Server の要件の概要を示しています。

オペレーティングシステム	アーキテクチャ	最小メモリー	推奨メモリー	最小ディスク容量	推奨ディスク容量
UNIX					
<ul style="list-style-type: none"> Sun Solaris 8 または 9 SPARC 版 Sun Solaris X86 	32 ビット / 64 ビット	256M バイト (Sun ONE Studio を使用しない場合)	512M バイト	250M バイト	500M バイト
<ul style="list-style-type: none"> Sun Linux 5.0 Red Hat Linux 7.2 	32 ビット	512M バイト (Sun ONE Studio を使用する場合)			
Microsoft Windows					

オペレーティングシステム	アーキテクチャ	最小メモリー	推奨メモリー	最小ディスク容量	推奨ディスク容量
<ul style="list-style-type: none"> • 2000 Advanced Server、SP2 • 2000 Server、SP2 • 2000 Professional、SP2 • Windows XP Professional 	Intel 32 ビット	256M バイト (Sun ONE Studio を使用しない場合) 256M バイト (Sun ONE Studio を使用する場合)	256M バイト (Sun ONE Studio を使用しない場合) 512M バイト (Sun ONE Studio を使用する場合)	250M バイト	500M バイト

Solaris パッチ

Solaris 8 システムには、次の URL の「パッチサポートポータル」から「推奨 & セキュリティパッチ」に記載されている Sun 推奨パッチクラスタをインストールする必要があります。

<http://jp.sunsolve.sun.com/>

Solaris 8 システムには、パッチ番号 109326-06、108827-26、および 110934 のパッチを必ずインストールしてください (全リビジョン対象。パッケージベースのインストールのみ)。これらの必須パッチは、インストーラによってチェックされます。これらのパッチがインストールされていないと、Sun ONE Application Server ソフトウェアをインストールすることも実行することもできません。最新の推奨パッチクラスタには、これらのパッチが最初から含まれています。

既知の問題と制限事項

この節では、Sun ONE Application Server 7 の既知の問題とその回避方法について、次の項目別に解説します。

注 問題の説明に特定のプラットフォームが明記されていない場合、その問題はすべてのプラットフォームに当てはまります。

この節は次の項目から構成されています。

- インストールとアンインストール
- サーバーの起動とシャットダウン

- データベースドライバ
- Web コンテナ
- EJB コンテナ
- コンテナ管理持続
- メッセージサービスとメッセージ駆動型 Beans
- Java Transaction Service (JTS)
- アプリケーションの配備
- ベリファイア
- 設定
- 配備記述子
- 監視
- サーバーの管理
- Sun ONE Studio 4 プラグイン
- サンプルアプリケーション
- ORB/IIOP リスナー
- ローカライズ (l10n)
- 国際化 (i18n)
- マニュアル

インストールとアンインストール

この節では、Sun ONE Application Server 7 のインストールおよびアンインストールに関する問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4687768	<p>Solaris の SDK/JDK の設定で、X ウィンドウを使用しないマシンにコマンド行モードでインストールしようとするとエラーが発生する</p> <p>X ウィンドウライブラリがない Solaris システムでは、Sun ONE Application Server インストーラを実行できません。これは、コマンド行モードを使用する場合も同じです。SDK または Webstart の設定ウィザードのインストールフレームワークで 사용되는 AWT オブジェクトを初期化しようとすると、インストーラから <code>java.lang.UnsatisfiedLinkError</code> がスローされます。</p> <p>解決法</p> <ol style="list-style-type: none">1. X ウィンドウのサポートパッケージをインストールしてください。このパッケージは、Sun ONE Application Server のインストールが完了したら削除します。2. <code>pkgadd</code> コマンドで Sun ONE Application Server パッケージをインストールします。次に、<code>asadmin</code> コマンドで初期ドメインを作成します。
4719600	<p>インストール時に警告メッセージが表示される</p> <p>インストール時に、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。次に例を示します。</p> <pre>WARNING: Couldn't flush system prefs:java.util.prefs.BackingStoreException:Couldn't get file lock. WARNING: Could not lock System prefs.Unix error code -223460600.</pre> <p>解決法</p> <p>これらの警告は無視してください。あるいは、システム設定ディレクトリ (通常は <code>/etc/.java/.systemPrefs</code>) を作成します。システム設定ディレクトリは、通常、JDK インストールスクリプトによって自動的に作成されます。</p>

ID	要約
4737663	<p>Solaris で、パッケージベースの製品と通常の製品を両方インストールすると競合が発生する</p> <p>パッケージベースの製品 (Solaris 9 バンドル版) とインストーラベースの通常の製品を両方インストールすると、競合が発生します。これらの製品は同一の Sun ONE Message Queue ブローカを共有します。このため、ドメイン名やインスタンス名が一意でないと、2 番目のドメインまたはインスタンスを起動するときに次のようなメッセージが表示されます。</p> <p>SEVERE:JMS5024:JMS サービスのスタートアップに失敗しました SEVERE:CORE5071: 初期化中にエラーが発生しました</p> <p>デフォルトのドメイン名とインスタンス名が両製品に共通であるという点には、特に注意が必要です。</p>
	<p>解決法</p> <p>『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の説明に従ってください。</p>
4742038	<p>Sun ONE Application Server インストールディレクトリの名前に英数字以外の文字が含まれていると Sun ONE Application Server が起動しない</p> <p>インストールディレクトリの名前に英数字以外の文字 (#、空白文字など) が含まれていると、Sun ONE Application Server が正常に起動しません。この場合、サーバーログファイルは作成されません。Sun ONE Application Server のインストールディレクトリの名前に使用できる文字は、英数字、ダッシュ (-)、下線 (_) のみです。インストール作業の一環として既存の Java 2 SDK ディレクトリを指定するときも、同じルールが適用されます。</p>
	<p>解決法</p> <p>インストール時には、英数字、ダッシュ、下線の文字のみ使用してディレクトリ名を指定してください。</p>
4742828	<p>サイレントインストーラがユーザーのアクセス権をチェックしない</p> <p>対話型インストーラ (GUI またはコマンド行) は、ユーザーのアクセス権が適切であるかどうかをチェックします。たとえば、Microsoft Windows へのインストールでは admin ユーザー、Solaris へのパッケージインストールでは root ユーザーのアクセス権が必要です。しかし、サイレントインストールでは、このチェックが行われません。パッケージをインストールするアクセス権 (Solaris)、またはサービスを作成するアクセス権 (Microsoft Windows) がないと、インストールは途中で失敗します。</p>
	<p>解決法</p> <p>サイレントインストールは、適切なパーミッションを持つユーザーが実行してください。</p>

ID	要約
4741190	<p data-bbox="239 244 1213 300">Solaris の場合に、JDK_LOCATION 値に以前のバージョン (Java 2 SDK1.2 より前) のソフトウェアの格納場所を指定してもインストールが中止されない</p> <p data-bbox="239 322 1213 465">Sun ONE Application Server 7 には、バージョン 1.4.0_02 以上の Java 2 SDK が必要です。しかし、Solaris 上では、既存の Java 2 SDK (バージョン 1.2 以下) を使用するように指定しても警告メッセージが表示されません。この場合、インストール自体は正常に完了しますが、Sun ONE Application Server が正常に機能しません。これは、以前の JAVA_HOME の設定が残っているからです。</p>
	<p data-bbox="239 487 315 510">解決法</p>
	<p data-bbox="239 532 1022 555">インストールプログラムの実行前に、JAVA_HOME の設定を解除します。</p>
	<p data-bbox="239 578 636 600">(ksh の場合):unset JAVA_HOME (csh の場合):unsetenv JAVA_HOME</p>
4742171	<p data-bbox="239 654 1213 710">既存の正常な環境に開発運用環境をサイレントモードでインストールした場合、エラーが報告されない</p> <p data-bbox="239 732 1213 843">インストーラをサイレントモードで実行するときに発生する問題です。既存の正常な Sun ONE Application Server 7 (同じディレクトリ内) 上に、新しい Sun ONE Application Server 7 をサイレントモードでインストールする場合、途中でエラーが報告されることなく処理が進行します。既存の正常なインストールファイルは保存されます。</p>
	<p data-bbox="239 866 315 888">解決法</p>
	<p data-bbox="239 911 1213 965">新しい開発運用環境をインストールする前に、既存の Sun ONE Application Server 7 環境をアンインストールしてください。</p>
4742552	<p data-bbox="239 987 1213 1076">コマンド行モード (サイレントモード) でインストールを行うとき、1 回のインストールセッションで Sun ONE Application Server と Support for Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition for Java コンポーネントの両方を選択すると、問題が発生する</p> <p data-bbox="239 1098 1213 1265">開発運用環境用インストールに影響を及ぼす問題です。コマンド行モード (サイレントモード) のインストールでは、1 回のインストールセッションで、Application Server と Support for Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition for Java の両方を選択できません (GUI モードではいずれか一方しか選択できない)。ところが、インストーラは、コンポーネントの依存関係を正しく処理できません。その結果、選択された Sun ONE Application Server コンポーネントではなく Administration Client コンポーネントをインストールしようとします。</p>
	<p data-bbox="239 1288 315 1310">解決法</p>
	<p data-bbox="239 1333 1213 1444">GUI モードの場合と同様に、最初にコマンド行モード (サイレントモード) で Sun ONE Application Server コンポーネントをインストールしておきます。その後、新たなセッションで Support for Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition for Java コンポーネントをインストールします。</p>

ID	要約
なし	<p>Solaris で、Sun ONE Application Server インストーラを使って既存の Sun ONE Message Queue 3.0 をバージョン 3.0.1 にアップグレードした場合、Sun ONE Application Server のアンインストール時に Sun ONE Message Queue も削除される</p> <p>Solaris の開発運用環境用インストーラに影響を及ぼす問題です。システム上の既存の Sun ONE Message Queue 3.0 を自動的にバージョン 3.0.1 にアップグレードできます。しかし、この Sun ONE Message Queue 3.0.1 は、Sun ONE Application Server のアンインストール時に削除されます。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server のアンインストール後も Sun ONE Message Queue を保存しておきたい場合は、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自動アップグレードを行うかどうかを確認するメッセージが表示された時点でインストーラを終了します。 2. Sun ONE Message Queue のマニュアルの手順に従って Sun ONE Message Queue 3.0.1 へアップグレードします。 3. Sun ONE Application Server を再実行します。
4746410	<p>Solaris で、Sun ONE Application Server を Solaris 上のデフォルト以外の場所にインストールするとき、パッケージベースのインストーラがディスク容量をチェックしない</p> <p>Sun ONE Application Server をパッケージベースのインストーラで Solaris 上のデフォルト以外の場所にインストールするとき、インストールプログラムはデフォルトの場所 (/opt) のディスク容量だけをチェックし、指定されたインストールディレクトリのディスク容量はチェックしません。</p> <p>解決法</p> <p>インストールを開始する前に /opt のディスク容量が 85M バイト以上あるかどうかを確認してください。これは、/opt をインストールディレクトリに指定しない場合も同様です。さらに、インストールディレクトリのディスク容量が 85M バイト以上あることを確認します。</p>
4748404	<p>Microsoft Windows XP で、サンプルアプリケーションコンポーネントと PointBase 4.2 コンポーネントを増分インストールできない</p> <p>Windows XP プラットフォームに影響を及ぼす問題です。既存の Sun ONE Application Server コンポーネント上に Sample Application コンポーネントや PointBase 4.2 コンポーネントを増分インストールしようとしても、既存の Sun ONE Application Server が正常に検出されません。その結果、「Application Server Not Found」というエラーメッセージが表示され、インストールが途中で終了します。</p> <p>解決法</p> <p>Sample Applications コンポーネントや PointBase 4.2 コンポーネントは、Sun ONE Application Server コンポーネントと同時にインストールしてください。Sun ONE Application Server がすでにシステム上に存在する場合は、いったんアンインストールして再インストールします。このとき、必要なコンポーネントをすべて選択します。</p>

ID	要約
4748455	<p data-bbox="239 291 1228 378">サイレントインストール時にディレクトリエラーが発生する</p> <p data-bbox="239 291 1228 378">全プラットフォームのサイレントインストールに影響を及ぼす問題です。指定のインストールディレクトリに問題がある場合、「Invalid Installation Directory」という汎用エラーメッセージが表示されます。このエラーメッセージは次のように解釈できます。</p> <ul data-bbox="239 395 1228 470" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 395 1228 418">• 選択されたディレクトリへの書き込みが許可されていない<li data-bbox="239 435 1228 458">• 選択されたディレクトリの名前が空文字列、または空白文字を含む文字列 <p data-bbox="239 487 315 510">解決法</p> <p data-bbox="239 534 1035 557">指定されたインストールディレクトリを調べ、エラーの原因を特定します。</p>
4749033	<p data-bbox="239 579 1228 638">Microsoft Windows XP で、スタンドアロンの管理クライアントをアンインストールプログラムでアンインストールできない</p> <p data-bbox="239 661 1228 770">Windows XP プラットフォーム上のスタンドアロンの管理クライアントに影響を及ぼす問題です。付属のアンインストールプログラムを使ってスタンドアロンの管理クライアントをアンインストールしようとする、不適切なコンポーネントセットが選択され、システムがハングアップします。</p> <p data-bbox="239 795 315 817">解決法</p> <p data-bbox="239 840 1228 1008">スタンドアロンの管理クライアントを手動でアンインストールします。<i>install_dir</i> ディレクトリ内のファイルと、プログラムグループフォルダ (「スタート」->「プログラム」->「Sun Microsystems」->「Sun ONE Application Server」) を削除します。スタンドアロンの管理クライアントコンポーネントに対応する Microsoft Windows レジストリエントリは存在しません。この手順により、システムは、管理クライアントがインストールされる前の状態に戻ります。</p>
4749666	<p data-bbox="239 1031 1228 1090">Sample Application コンポーネントを増分インストールした場合、サンプルドキュメントが初期サーバーインスタンスに公開されない</p> <p data-bbox="239 1112 1228 1281">すべてのプラットフォームの開発運用環境用インストーラに影響を及ぼす問題です。Sun ONE Application Server のインストール後、新たなインストールセッションでサンプルアプリケーションをインストールした場合、サンプルドキュメントが初期サーバーインスタンスに公開されません。また、http://hostname:port/samples からアクセスすることもできません。しかし、サンプルドキュメントはファイルシステム上にインストールされており、次の URL からのローカルアクセスは可能です。<code>file:///install_root/samples/index.html</code></p> <p data-bbox="239 1303 315 1326">解決法</p> <p data-bbox="239 1350 915 1373">サンプルドキュメントにはローカルからアクセスしてください。</p>

ID	要約
4754256	<p data-bbox="334 244 1308 302">Solaris では、インストーラを使って Sun ONE Message Queue をアップグレードする場合、設定ファイルが保存されない</p> <p data-bbox="334 324 1315 435">インストーラは、システム上で以前の Sun ONE Message Queue 3.0 パッケージを検出すると、自動的に Sun ONE Application Server 用の Sun ONE Message Queue 3.0.1 にアップグレードします。このとき、バージョン 3.0 の Solaris パッケージとともに次の設定ファイルが削除されます。</p> <pre data-bbox="334 458 805 510">/etc/imq/passwd /etc/imq/accesscontrol.properties</pre> <p data-bbox="334 532 1272 585">これらのファイルに変更を加えていた場合、変更内容は失われます。Sun ONE Message Queue 3.0.1 はデフォルトの設定になります。</p> <p data-bbox="334 607 411 630">解決法</p> <p data-bbox="334 652 1315 736">変更が加えられているファイルのバックアップコピーを作成しておき、アップグレードの完了後に復元します。詳細については、『Sun ONE Message Queue 3.0 インストールガイド』を参照してください。</p>

ID	要約
4754824	<p data-bbox="239 244 1253 269">Solaris で、CD からインストールを実行しているときエラーメッセージが表示される</p> <p data-bbox="239 288 1253 482">CD-ROM ドライブにボリュームを挿入すると、Solaris ボリューム管理によりシンボリック名が割り当てられます。たとえば、デフォルトの正規表現が一致している CD-ROM が 2 枚ある場合、それぞれに <code>cdrom0</code> または <code>cdrom</code> という名前が割り当てられます。正規表現が一致している CD-ROM をさらに追加すると、<code>cdrom2</code> で始まる名前が割り当てられます。このことは、<code>vold.conf</code> のマニュアルページで説明しています。CD から Sun ONE Application Server をインストールするたびに、ラベル名と数値から成るマウントポイント名が割り当てられます。最初のマウント時は何の問題も発生しませんが、2 回目以降では、インストーラを起動すると次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="239 501 1253 591">IOException:java.io.FileNotFoundException:/cdrom/appserver7 (No such file or directory) while loading default flavormap.properties file URL:file:/cdrom/appserver7#4/AppServer7/pkg/jre/lib/flavormap.properties</pre> <p data-bbox="239 611 315 635">解決法</p> <p data-bbox="239 654 1253 708">インストーラの機能には何の影響もありませんが、この問題を回避するには次の手順に従ってください。</p> <ol data-bbox="239 727 1253 921" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 727 1253 798">1. コマンドプロンプトに <code>su</code> と入力し、パスワードを入力してスーパーユーザーになります。または、最初から <code>root</code> (スーパーユーザー) としてログインします。スーパーユーザーのコマンドプロンプト (<code>#</code>) が表示されます。<li data-bbox="239 817 1253 871">2. <code>cdrom</code> ディレクトリが存在しない場合は、次のコマンドで作成します。 <code># mkdir /cdrom</code><li data-bbox="239 890 1253 914">3. CD-ROM ドライブをマウントします。 <p data-bbox="239 933 1253 987">注: <code>vold</code> プロセスは、CD-ROM デバイスを管理し、マウントを実行します。<code>/cdrom/cdrom0</code> に、CD-ROM が自動的にマウントされます。</p> <p data-bbox="239 998 1253 1052">ファイルマネージャを実行している場合は、ファイルマネージャウィンドウが開き、CD-ROM の内容が表示されます。</p> <ol data-bbox="239 1071 1253 1442" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 1071 1253 1142">4. CD-ROM がマウントされていないため <code>/cdrom/cdrom0</code> ディレクトリが空になっている場合や、CD-ROM のコンテンツを表示するファイルマネージャウィンドウが開かない場合は、次のコマンドで、<code>vold</code> デーモンが実行されているかどうかを確認します。 <code># ps -e grep vold grep -v grep</code><li data-bbox="239 1196 1253 1249">5. <code>vold</code> が実行されている場合は、<code>vold</code> のプロセス ID が表示されます。何も表示されない場合は、次のコマンドでデーモンを強制終了します。 <code># ps -ef grep vold grep -v grep</code><li data-bbox="239 1303 1253 1357">6. 次のコマンドで <code>vold</code> プロセスを停止します。 <code># kill -15 process_ID_number</code><li data-bbox="239 1376 1253 1442">7. CD-ROM を手動でマウントします。 <code># mount -F hsfs -r ro /dev/dsk/cxytd0sz /cdrom/cdrom0</code> <p data-bbox="239 1461 1253 1515">x は CD-ROM ドライブのドライブコントローラ文字です。y は CD-ROM ドライブの SCSI ID です。z は CD-ROM が置かれているパーティション (スライス) です。</p> <p data-bbox="239 1534 1253 1588">これで、CD-ROM ドライブがマウントされました。インストール時の手順については、Solaris のマニュアルで CD のインストールと設定に関する説明を参照してください。</p>

ID	要約
4755165	<p data-bbox="334 244 1305 300">Microsoft Windows で、管理者の認証情報を setup.exe の実行時に提供した場合、インストーラ機能に問題が発生する</p> <p data-bbox="334 322 1305 465">Microsoft Windows プラットフォームのインストールに影響を及ぼす問題です。管理者の特権なしでログインしたユーザーが setup.exe を実行しようとする、管理者の認証情報の入力を求めるプロンプトが表示されます。正しい認証情報を入力すると、特権のチェックが正常に完了し、インストールが開始されます。ただし、次のような問題が発生することがあります。</p> <ul data-bbox="334 487 1305 586" style="list-style-type: none"><li data-bbox="334 487 1305 543">• インストールディレクトリを選択する画面で「ブラウズ」ボタンを使用すると、インストーラがハングアップします。<li data-bbox="334 560 1305 586">• Sun ONE Application Server のプログラムグループエントリが作成されません。
4757687	<p data-bbox="334 609 411 631">解決法</p> <p data-bbox="334 654 1250 677">インストールの実行時には管理者の特権を持つユーザーとしてログインしてください。</p> <p data-bbox="187 696 1305 751">4757687 Solaris で、Administration Client コンポーネントがインストールされているシステムに増分インストールすると、Sun ONE Application Server を使用できなくなる</p> <p data-bbox="334 774 1305 1038">Solaris プラットフォーム上の Solaris のパッケージベースのインストールに影響を及ぼす問題です。スタンドアロンの Administration Client コンポーネントがインストールされているシステムに、Administration Client コンポーネントのインストールディレクトリ以外のディレクトリを指定して Sun ONE Application Server をインストールした場合、インストールに成功したというメッセージが表示されていても、この Sun ONE Application Server を使用することはできません。これは、システム上に Administration Client の Solaris パッケージがインストールされているからです。これらのパッケージを Sun ONE Application Server と同時にインストールすることはできません。その結果、製品機能を使用するために必要なファイルが見つからないという問題が発生します。</p> <p data-bbox="334 1055 411 1078">解決法</p> <p data-bbox="334 1100 1305 1156">Solaris システム上のスタンドアロンの Administration Client をアンインストールしてから、Sun ONE Application Server をインストールします。</p> <p data-bbox="334 1178 1305 1234">Sun ONE Application Server の増分インストールも可能ですが、Administration Client と同じインストールディレクトリを使用する必要があります。</p>

ID	要約
4762118	<p data-bbox="239 244 1206 303">Solaris で、選択されたカスタム設定ディレクトリが選択されたインストールディレクトリのサブディレクトリ etc である場合、インストールが失敗する</p> <p data-bbox="239 326 1206 407">Solaris プラットフォーム上の Solaris のパッケージベースのインストールに影響を及ぼす問題です。次の組み合わせでカスタムディレクトリを選択すると、ディレクトリのグループの所有権情報に不整合が生じ、インストールが失敗します。</p> <ul data-bbox="239 430 671 494" style="list-style-type: none">• インストールディレクトリ <i>install_dir</i>• 設定ディレクトリ <i>install_dir/etc</i> <p data-bbox="239 520 1206 572"><i>/var/sadm/install/logs</i> ディレクトリ内の <i>pkgadd</i> ログファイルに次のエラーメッセージが書き込まれます。</p> <pre data-bbox="239 590 885 651">pkgadd:ERROR: duplicate pathname /install_dir/etc pkgadd:ERROR:unable to process pkgmap</pre> <p data-bbox="239 668 314 694">解決法</p> <p data-bbox="239 711 985 737"><i>install_dir/etc</i> 以外のカスタム設定ディレクトリを選択してください。</p>
4724612	<p data-bbox="239 760 1206 819">Solaris および Linux で、インストールを行ったユーザー以外が PointBase シェルスクリプトを実行すると失敗する</p> <p data-bbox="239 841 1206 894">Solaris および Linux の評価版インストールだけに影響を及ぼす問題です。PointBase シェルスクリプトの実行権はインストールを行ったユーザーにだけ付与されます。</p> <p data-bbox="239 911 314 937">解決法</p> <p data-bbox="239 954 1206 1015">製品のインストールを行ったユーザー以外がこのスクリプトを実行する必要がある場合は、実行権を 0755 に変更してください。</p>
4762694	<p data-bbox="239 1038 1206 1097">Solaris で、Sun ONE Message Queue のアップグレード時にパッケージ SUNWiqsup が削除されない</p> <p data-bbox="239 1119 1206 1223">Solaris だけで発生する問題です。Sun ONE Application Server7 のインストール時には、Sun ONE Message Queue 3.0.1 がインストールされます。Solaris 上で Sun ONE Message Queue 3.0 が検出された場合、このバージョンはユーザーの承認を経てアンインストールされます。その後、バージョン 3.0.1 がインストールされます。</p> <p data-bbox="239 1241 1206 1362">アップグレード時、Solaris インストーラが Sun ONE Message Queue 3.0 の Solaris パッケージの一部 (SUNWiqsup) を削除しないというクリーンアップ関連の問題があります。このパッケージは、Sun ONE Message Queue にも Sun ONE Application Server 7 にも悪影響を及ぼしません。したがって、残したままでも問題はありません。</p> <p data-bbox="239 1380 314 1406">解決法</p> <p data-bbox="239 1423 1206 1484">root (スーパーユーザー) になり、次のコマンドを使って SUNWiqsup パッケージを手動で削除します。</p> <pre data-bbox="239 1501 485 1527"># pkgrm SUNWiqsup</pre>

ID	要約
4805912	<p data-bbox="334 244 1310 302">Linux で、Web サービスを配備するときに ClassNotFoundException が発生することがある</p> <p data-bbox="334 324 1322 465">これは、アドオンコンポーネント (rpm を使用して手動でインストールしたもの) がまだマシン上にあるために発生します。標準インストール時には、Web サービスおよび Sun ONE Message Queue JAR ファイルは /opt/SUNWappserver7 の下にあります。ただし、既にアドオンコンポーネントがインストールされていると、server1 に関連する server.xml ファイルが次のクラスパスを持つことがあります。</p> <pre data-bbox="334 487 1322 713">/home/SUNWappserver7/share/lib/jaxrpc-impl.jar:/home/SUNWappserver7/share/lib/jaxrpc-api.jar: /home/SUNWappserver7/share/lib/jaxr-impl.jar:/home/SUNWappserver7/share/lib/jaxr-api.jar: /home/SUNWappserver7/share/lib/activation.jar:/home/SUNWappserver7/share/lib/saaj-api.jar: /home/SUNWappserver7/share/lib/saaj-impl.jar:/home/SUNWappserver7/share/lib/commons-logging.jar</pre> <p data-bbox="334 736 1322 793">アドオンコンポーネントを /opt ディレクトリにインストールしなかった場合、Web サービスを使用または配備するときに次のエラーが発生します。</p> <pre data-bbox="334 815 1322 862">java.lang.ClassNotFoundException:com.sun.xml.rpc.server.http.JAXRPCServlet</pre> <p data-bbox="334 885 411 907">解決法</p> <p data-bbox="334 930 1310 987">Sun ONE Application Server をインストールする前に、次のようにして .rpm ファイルがインストールされていることを確認してください。</p> <pre data-bbox="379 1010 622 1032">rpm -qa grep SUNW</pre> <p data-bbox="334 1055 1310 1112">Sun ONE Application Server の完全インストールを実行する前に、以前のアドオンコンポーネントがアンインストールされていることを確認してください。</p>

サーバーの起動とシャットダウン

この節では、Sun ONE Application Server 7 の起動およびシャットダウンに関する問題とその解決方法を示します。

ログサービスの create-console 属性の動作

Microsoft Windows では、server.xml 内の log-service 要素の create-console 属性の値を true に設定すると (デフォルト設定)、デスクトップ上にウィンドウが開き、サーバーイベントログの内容が表示されます。意図的にこのウィンドウを閉じて、アプリケーションサーバーインスタンスプロセスが終了したままになることはありません。コンソールウィンドウを閉じると、appservd.exe プロセスが終了します。しかし、このサーバーインスタンスプロセスは、監視プロセス (appservd-wdog.exe) によってただちに再起動されます。

開発者は、アプリケーションサーバーインスタンスを迅速に再起動する手段として、インスタンスのイベントログウィンドウを閉じることができます。

ただし、アプリケーションサーバーインスタンスを完全に (監視プロセスとともに) 停止する場合は、次の手順を実行してください。

- 管理インターフェースを使用する場合 - 「スタート」->「プログラム」->「Sun ONE Application Server 7」->「Stop Application Server」を選択します。
- コマンド行インターフェースを使用する場合 - `asadmin stop-instance --local=true instance name` を実行します。

これは、ローカル形式の stop-instance コマンドです。リモート形式も使用できます。詳細については、`asadmin stop-instance` のヘルプを参照してください。

- 管理コンソールを使用する場合 - サーバーインスタンスを選択し、「停止」をクリックします。

管理コンソールでは、アプリケーションサーバーインスタンスの「ログ」タブの「コンソールを作成」の設定を変更することにより、コンソールイベントログウィンドウの有効または無効を切り替えることができます。

ID	要約
4725893	Solaris および Linux で、ライセンスの有効期限が表示されない Solaris および Linux の評価用ライセンスに影響を及ぼす問題です。ライセンスの有効期限まで2週間以内になっても、コマンド行インタフェースやブラウザベースのインタフェースに警告メッセージが表示されません。この警告メッセージは、サーバーログファイルに書き込まれます。 解決法 サーバーログファイルを確認してください。
4738648	JMS サービス、または Sun ONE Application Server の起動に失敗する JMS プロバイダ (Sun ONE Message Queue ブローカ) が未配信の持続メッセージを大量に保持している場合、次の問題の発生により、Sun ONE Application Server の初期化時に障害が発生します。 1. 未配信のメッセージを全部読み込もうとしてメモリー不足になり、MQ ブローカの処理が中断されます。 解決法 MQ ブローカプロセスの Java ヒープサイズを大きくしてください。このためには、JMS サービスの起動引数属性の値を <code>-vmargs -Xmx256m</code> に設定します。 この属性の設定手順については、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の「JMS サービスの使用」の章を参照してください。 2. MQ ブローカが特定の時間内に初期化シーケンスを完了できない場合、Sun ONE Application Server がタイムアウトになり、中断します。 解決法 JMS サービスの Start Timeout 属性の値を大きくします。この属性の設定手順については、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』の「JMS サービスの使用」の章を参照してください。

ID	要約
----	----

4762420 ファイアウォールの規則により、Sun ONE Application Server の起動に失敗する

個人的にファイアウォールをインストールしている場合に発生する問題です。Sun ONE Application Server がインストールされているマシンに厳密なファイアウォール規則を適用すると、管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスの起動時に障害が発生することがあります。管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスは、Sun ONE Application Server 環境でローカル接続を確立しようとしています。これらの接続はローカルのホストではなくシステムのホスト名を使ってポートにアクセスしようとするので、ローカルのファイアウォールの規則に従ってブロックされることがあります。

セキュリティ上何の問題もない処理に対して、ローカルのファイアウォールが誤った警告を生成することもあります。たとえば、Sun ONE Application Server がポート 3700 で TCP 接続を試行しているのに、「Portal of Doom Trojan」攻撃または同様の攻撃を受けたというメッセージが表示される場合があります。このような問題は、Sun ONE Application Server がローカル通信に使用するポート番号と、既知の一般的な攻撃に使用されるポート番号が重複している場合に発生します。ポート番号が重複しているかどうかの判断基準は次のとおりです。

- Microsoft Windows プログラムグループの「Start Application Server」を使って Sun ONE Application Server を起動しようとする、次のメッセージとともに処理が失敗します。

```
インスタンスを起動できませんでした :domain1:admin-server
サーバーの再起動に失敗しました :abnormal subprocess termination
...
```

- 管理ログファイルとサーバーインスタンスログファイルに、接続例外と次のメッセージが書き込まれています。CORE3186:Failed to set configuration

解決法

Sun ONE Application Server からローカルシステム上のポートに接続できるように、ファイアウォールポリシーを変更します。

攻撃について誤った警告が生成されないようにするには、攻撃関連の規則を変更するか、Sun ONE Application Server が使用するポート番号を変更します。

管理サーバーおよびアプリケーションサーバーインスタンスが使用するポート番号は、Sun ONE Application Server のインストール先の `server.xml` ファイルで確認できます。

```
domain_config_dir/domain1/admin-server/config/server.xml
domain_config_dir/domain1/server1/config/server.xml
```

`domain_config_dir` はサーバーの初期設定を行った場所です。次に例を示します。

Microsoft Windows: `install_dir/domains/...`

Solaris 9 以上の統合インストールの場合 `:/var/appserver/domains/...`

Solaris 8、9 とそれ以上のアンバンドルのインストールの場合

```
:/var/opt/SUNWappserver7/domains/...
```

<iiop-listener> と <jms-service> のポート設定を確認します。これらのポート番号を未使用のポート番号に変更するか、ローカルマシン上のクライアントから同じマシン上のこれらのポートへ接続できるようにファイアウォールポリシーを書き換えます。

ID	要約
----	----

4780076 Solaris で、Sun ONE Application Server がすべてのインスタンスを root として起動するため、root ユーザー以外にルートアクセスが可能になってしまう

Sun ONE Application Server が Solaris インストール (バンドル版) の一部としてインストールされているとき、アプリケーションサーバーの起動に関連する問題がいくつかあります。

- すべてのアプリケーションサーバーおよび管理サーバーのインスタンスは、Solaris システムの起動時に自動的に起動します。多くの環境で、すべてのインスタンスが Solaris システムの起動時に自動的に起動することが予期されるわけではありません。定義されているすべてのインスタンスが起動されると、システム上で使用できるメモリーに悪影響を与えることがあります。
- アプリケーションサーバーインスタンスと管理サーバーインスタンスが自動的に起動すると、各インスタンスの起動スクリプトが root として実行されます。root 以外のユーザーが所有していない起動スクリプトの実行は、インスタンスレベルの起動スクリプトの変更によって、root ユーザー以外が root ユーザーにアクセスできてしまうことがあります。

バックグラウンド

Sun ONE Application Server を Solaris インストールの一部としてインストールするときは、`/etc/init.d/appserv` スクリプトと、`/etc/rc*.d/` ディレクトリ内の `S84appserv` および `K05appserv` に対するシンボリックリンクがインストールされます。これらのスクリプトによりアプリケーションサーバーおよび管理サーバーのすべてのインスタンスがアプリケーションサーバーインストールの一部として定義され、Solaris システムの起動とシャットダウン時に自動的に起動したり停止します。

`/etc/init.d/appserv` スクリプトには、次のコードのセクションが含まれています。

```
...
case "$1" in
'start')
    /usr/sbin/asadmin start-appserv
    ;;
'stop')
    /usr/sbin/asadmin stop-appserv
    ;;
...

```

`asadmin start-appserv` コマンドを実行すると、管理サーバーインスタンスとすべての管理ドメイン内に定義されているすべてのアプリケーションサーバーインスタンスが、Solaris システムの起動時に起動します。システムの起動およびシャットダウンのスクリプトは root として実行されるため、アプリケーションサーバーおよび管理サーバーの各インスタンスの起動スクリプトも root として実行されます。インスタンスレベルの起動スクリプトは、名前が `startserv` で、`instance-dir/bin/startserv` にあります。インスタンスは root 以外のユーザーが所有していることがあるため、`startserv` スクリプトが root 以外のユーザーによって変更され、root ユーザーとしてコマンドを実行する可能性があります。

インスタンスが権限を持つネットワークポートを使用している場合、そのインスタンスの `startserv` スクリプトは root として実行する必要があります。ただし、このような場合の「実行するユーザー」は、通常はインスタンスの設定に、そのインスタンスが root ユーザーによって最初に起動されたあとで、インスタンスを指定されているユーザーとして強制的に実行するよう設定されています。

ID	要約
----	----

(続き) **解決法**

作業環境に応じて、次のいずれかの措置をとってください。

- 作業環境でアプリケーションサーバーと管理サーバーのインスタンスすべてを **root** として起動する必要がない場合は、`etc/init.d/appserv` スクリプトに `asadmin start-appserv` および `asadmin stop-appserv` コマンドをコメントアウトします。
- 作業環境で、特定の管理ドメイン (管理サーバーインスタンスと、各ドメインのすべてのアプリケーションサーバーインスタンスを含む) または 1 つ以上の管理ドメイン内の特定のインスタンスのいずれかを起動する必要がある場合は、`/etc/init.d/appserv` スクリプトを修正して目的のドメインやインスタンスを起動するか、作業環境のニーズに合う `/etc/rc*.d/` スクリプトを新たに定義します。
- 特定のドメインの起動。管理ドメインまたは特定のインスタンスのいずれかを **root** 以外のユーザーとして起動する必要がある場合は、必ず `-c` オプションを付けた `su` コマンドを使用して目的のドメインやインスタンスの起動します。

例

特定の管理ドメインの起動 - 管理サーバーインスタンスおよび特定の管理ドメインのすべてのアプリケーションサーバーインスタンスを **root** ユーザーとして起動する場合は、`/etc/rc*.d/` スクリプトを次のように変更することができます。

```
...
case "$1" in
'start')
    /usr/sbin/asadmin start-domain --domain production-domain
    ;;
'stop')
    /usr/sbin/asadmin stop-domain --domain production-domain
    ;;
...

```

ID	要約
(続き)	<ul style="list-style-type: none">特定のアプリケーションサーバーインスタンスを <code>root</code> 以外のユーザーとして起動する場合は、<code>/etc/rc*.d/</code> スクリプトを変更して、<code>-c</code> オプションを付けた <code>su</code> コマンドを使用します。 <pre>... case "\$1" in 'start') su - usera -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain instance-a" su - userb -c "/usr/sbin/asadmin start-instance --domain test-domain instance-b" ;; 'stop') su - usera -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain instance-a" su - userb -c "/usr/sbin/asadmin stop-instance --domain test-domain instance-b" ;; ... asadmin コマンド行インタフェースから使用できる起動およびシャットダウンコマンドの詳細については、<i>Sun ONE Application Server</i> 管理者ガイドを参照してください。</pre>

データベースドライバ

この節では、データベースドライバに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4700531	<p data-bbox="239 383 853 404">Solaris で、ORACLE JDBC ドライバエラーが発生する</p> <p data-bbox="239 430 1226 543">この JDBC ドライバは、JDK 1.4 と連携して機能する Oracle (R) 用の新しいドライバです。Oracle 9.1 データベースと ojdbc14.jar が併用されているために、エラーが発生しています。Oracle 9.0.1.3 データベースを実行している 32 ビット版 Solaris マシンにパッチを適用すれば、問題を修正できます。</p> <p data-bbox="239 564 315 585">解決法</p> <p data-bbox="239 611 1226 664">Oracle の Web サイトからバグ ID 2199718 のパッチを入手し、サーバーに適用します。次の手順を実行してください。</p> <ol data-bbox="239 685 1226 1015" style="list-style-type: none">1. Oracle の Web サイトに移動します。2. 「パッチ」ボタンをクリックします。3. パッチ ID フィールドに「2199718」と入力します。4. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。次に、Metalink.oracle.com に移動します。5. パッチをクリックします。6. パッチ ID 2199718 を入力します。7. 32 ビット版 Solaris の OS パッチをクリックします。
4707531	<p data-bbox="239 1036 1226 1090">Solaris で、Oracle 9.2 クライアントで Oracle 9.1 データベースにアクセスすると、データが破壊されることがある</p> <p data-bbox="239 1116 1226 1170">Oracle (R) 9.2 クライアントを使用して Oracle 9.1 データベースにアクセスすると、タイムスタンプ列のあとに数字列が続いているときにデータが壊れることがあります。</p> <p data-bbox="239 1190 1226 1303">この問題は、Oracle 9.1 と一緒に ojdbc14.jar ファイルを使用することで発生することがあります。Oracle 9.1 データベースを実行している 32 ビット版 Solaris マシンにパッチを適用すれば、この状況の対処に役立ちます。この JDBC ドライバは、JDK1.4 で操作する Oracle 用です。</p> <p data-bbox="239 1324 315 1345">解決法</p> <p data-bbox="239 1371 1226 1425">Oracle の Web サイトから入手できるバグ ID 2199718 のパッチを入手し、サーバーに適用します。</p>

ID	要約
4804378	<p>Linux で、Oracle Linux クライアント JDBC ドライバが Sun ONE Application Server で動作しない。</p> <p>Oracle 9.2 Linux クライアント JDBC ドライバは、Linux 版の Sun ONE Application Server 7, Standard Edition、特に petstore サンプルでは動作しません。</p> <p>解決法</p> <p>代わりに Oracle 側の JDBC ドライバを使用してください。たとえば、classes12.zip または classex12.jar を使用してください。</p>

Web コンテナ

この節では、Sun ONE Application Server 7 の Web コンテナの既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4740477	<p>sun-web-app_2_3-0.dtd ファイル内に、タイムアウト要素の構文が正しくない Web キャッシュの例がある</p> <p>この例では、timeout が XML キャッシュオブジェクトを使用するように設定されています。</p> <pre><timeout> 60 </timeout></pre> <p>name パラメータは必須フィールドなので、本来であれば次のように設定しなければなりません。</p> <pre><timeout name="foo">60</timeout></pre> <p>解決法</p> <p>ベリファイアを使用しないでください。</p>

EJB コンテナ

この節では、Sun ONE Application Server 7 Enterprise JavaBeans™ (EJB™) コンテナの既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4735835	<p data-bbox="235 418 1249 442">ejbFind メソッドから戻された null の PK を正しく処理できない</p> <p data-bbox="235 465 1249 546">次のコンテナ管理持続 (CMP) の例では、ejbFind から 1 個以上の null が戻されます。なお、ここでは、ejbFind が EmployeeEJB Bean によって呼び出され、Bean と同じインスタンス型を戻すものとします。</p> <ol data-bbox="235 569 1249 685" style="list-style-type: none"><li data-bbox="235 569 1249 593">1. <code>find insurance.employee where insurance.id == 10</code> insurance に employee が関連付けられていない場合、null を戻します。<li data-bbox="235 656 1249 680">2. <code>find all insurance.employee where insurance.id > 10</code> employee を持たない insurance に対して、null を含む集まりを戻します。 <p data-bbox="235 751 1249 807">結果セット内で最初に null の PK を検出したとき、CMP クライアントは、「param0 cannot be null」という <code>JDOFatalInternalException</code> を受け取ります。</p> <p data-bbox="235 829 1249 911">単一オブジェクトの検索メソッドの場合、BMP クライアントは、「Null primary key returned from ejbFind method」という <code>EJBException</code> を受け取ります。マルチオブジェクトの検索メソッドの場合、<code>NullPointerException</code> を受け取ります。</p> <p data-bbox="235 933 321 958">解決法</p> <p data-bbox="235 980 464 1005">解決法はありません。</p>
4744434	<p data-bbox="235 1025 1249 1081">ステートフルセッション Bean の使用時に Sun ONE Application Server が Null Pointer 例外をスローする</p> <p data-bbox="235 1104 1249 1272">Sun ONE Application Server の EJB コンテナは、ステートフルセッション Bean をキャッシュに格納することにより、パフォーマンスを改善します。キャッシュのオーバーフローが発生すると (キャッシュ内の Bean 数が <code>max-cache-size</code> を超過すると)、コンテナにより、Bean がディスクに非活性化されます。サーバーが <code>NullPointerException</code> をスローするという問題は、<code>max-cache-size</code> と <code>cache-resize-quantity</code> の差が 8 より小さいときに発生します。</p> <p data-bbox="235 1295 321 1319">解決法</p> <p data-bbox="235 1341 1249 1423"><code>max-cache-size</code> と <code>cache-resize-quantity</code> の差が 8 より大きくなるように設定します。または、<code>max-cache-size</code> の値を 0 に設定して、バインド解除されたキャッシュを使用します。</p>

コンテナ管理持続

この節では、コンテナ管理持続 (CMP) の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4723378	EJBQL の WHERE 句で IMAGE データ型を使用すると例外が発生する Sybase データベースには、IMAGE データ型のデータが入っている列を WHERE 句の中で使用できないという構造上の制限があります。たとえば、EJBQL SELECT DISTINCT OBJECT(t) FROM TestBean t WHERE t.product IS NOT NULL で t.product が IMAGE データ型である場合、次のような例外が発生します。 com.sybase.jdbc2.jdbc.SySQLException:TEXT and IMAGE datatypes may not be used in a WHERE clause, except with the LIKE expression. 解決法 解決法はありません。
4732684	Oracle JDBC ドライバの最適化が開始されない コンテナ管理持続 (CMP) Bean を使って Oracle(R) データベースを最適化するには、classes12.zip ファイルを server.xml ファイルの classpath-suffix 属性に指定する必要があります。サードパーティライブラリのデフォルトのディレクトリ /lib には格納しません。 解決法 server.xml ファイルの classpath-suffix 属性に classes12.zip ファイルを追加します。
4734963	配備時にセルフリファレンス CMR による問題が発生する EJB 配備記述子のパーサー ejb-jar.xml は、自己参照のコンテナ管理関係 (CMR)、すなわち ejb-relationship-role を正しく処理しません。One 側のフィールドはスキップされます。 解決法 One 側 (<multiplicity> は Many) が ejb-relation の先頭に来るように ejb-relationship-role セクションを変更します。

ID	要約
4742757	<p data-bbox="229 227 1223 269">PK/FK が重複している場合、CMR でカスケード削除を実行できない</p> <p data-bbox="229 286 1223 373">コンテナ管理関係 (CMR) フィールドが、主キーまたは外部キーの重複に関する制約があるデータベーススキーマにマップされている場合、<code>cascade-delete</code> 機能を使って CMR フィールドの関連要素を削除することはできません。</p> <p data-bbox="229 390 1223 512">こうしたスキーマの例として、Order-LineItem 関係を挙げることができます。こうしたスキーマを持つアプリケーションで Order Bean を削除しようとしていて、対応する関係が <code>cascade-delete</code> に指定されている場合、呼び出し元に、主キーの更新を許可しないという次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="229 529 1223 668">java.rmi.RemoteException:Exception thrown from bean; nested exception is: javax.ejb.EJBException:nested exception is: com.sun.jdo.api.persistence.support.JDOUserException: 管理された関係から インスタンスを削除しようとするのは不正な試みです。</pre> <p data-bbox="229 685 1223 807">関係は他方サイドの主キーカラムによって定義されています。コレクション上の削除オペレーションでは、他方サイドのカラムの更新が必要です。このため、主キーによって定義された管理関係コレクションからインスタンスを削除することは、そのインスタンスを明示的に削除、またはカスケード削除することによってのみ行えます。</p> <p data-bbox="229 824 1223 911">NestedException: <code>com.sun.jdo.api.persistence.support.JDOUnsupportedOptionException:</code> 主キーフィールドの更新はできません。</p> <p data-bbox="229 928 314 954">解決法</p> <p data-bbox="229 972 699 998">次のいずれかの方法で問題を回避できます。</p> <ol data-bbox="229 1015 1223 1161" style="list-style-type: none">1. PK/FK が重複しているテーブルにマップされている関係に対しては、<code>cascade-delete</code> を使用しない: 関係が重複した Bean に対して繰り返し処理を適用し、1 つずつ削除したあとで所有側の Bean を削除してください。2. PK/FK が重複しないようにテーブル定義を変更する

ID	要約
4745637	検索メソッドと選択メソッドのオーバーロードによりパラメータエラーが発生する
	<p>Bean は、検索メソッドや選択メソッドをオーバーロードできません。検索メソッド、選択メソッドに同じ名前を割り当てることはできますが、同じパラメータを割り当てることはできません。Employee Bean が、名前を指定して Employee Bean を選択する検索メソッドを 2 つ持っているとしたします。最初の検索メソッドは、姓をパラメータとして使用し、従業員名を戻します。</p>
	<pre>public Collection findByName(String name) EJBQL:SELECT OBJECT(e) FROM Employee e WHERE lastname = ?1</pre>
	<p>2 番目の検索メソッドも findByName ですが、パラメータとして姓と名前を使用します。</p>
	<pre>public Collection findByName(String firstname, String lastname) EJBQL:SELECT OBJECT(e) FROM Employee</pre>
	<pre>WHERE firstname = ?1 AND lastname = ?1</pre>
	<p>ランタイムが 2 つの検索メソッドの定義を混同するため、次のエラーが発生します。 JDOQueryException: クエリパラメータのバインドを解除します</p>
	解決法
	<p>検索メソッド、選択メソッドには、常に一意の名前を付けてください。上の例では、findByLastname、findByFirstnameAndLastname のような名前を使用することをお勧めします。</p>

ID	要約
4747222	<p data-bbox="239 244 1225 302">Oracle のキャプチャスキーマユーティリティは <code>-schemaname</code> が指定されていないと動作しない</p> <p data-bbox="239 324 1189 378">capture-schema ユーティリティでは、<code>-schemaname</code> を指定しないで Oracle(R) データベースからデータベーススキーマ情報を取り込もうとすると、次の問題が発生します。</p> <p data-bbox="239 401 1225 423">1. すべてのテーブルを取り込もうとした場合 (特定のテーブルを明示的に選択しない場合):</p> <pre data-bbox="239 446 1125 526">bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -out test.dbschema</pre> <p data-bbox="239 548 654 571">次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="239 576 789 630">java.sql.SQLException ORA-00942:table or view does not exist.</pre> <p data-bbox="239 652 561 675">出力ファイルは壊れています。</p> <p data-bbox="239 697 975 720">2. <code>-table</code> オプションを使って 1 個以上のテーブルを指定した場合:</p> <pre data-bbox="239 743 1125 822">bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -table DEPT -out test.dbschema</pre> <p data-bbox="239 845 1218 899">出力ファイルには指定のテーブルが書き込まれますが、カラム情報は書き込まれません。したがって、このファイルで CMP マッピングを行うことはできません。</p> <p data-bbox="239 921 318 944">解決法</p> <p data-bbox="239 966 1225 1020">Oracle データベースからスキーマを取り込むときは、必ず <code>-schemaname</code> オプションを使用し、アルファベットの大文字でユーザー名を指定してください。</p> <pre data-bbox="239 1043 1225 1123">bin/capture-schema -dburl jdbc:oracle:thin:@oraserver:1521:ora -username scott -password tiger -driver oracle.jdbc.driver.OracleDriver -schemaname SCOTT -out test.dbschema)</pre>
4751235	<p data-bbox="239 1145 1225 1203">キャプチャスキーマユーティリティ : Oracle または PointBase で <code>-table</code> オプションの値を大文字で指定しないと壊れたファイルが出力される</p> <p data-bbox="239 1225 1225 1394">Oracle (R) や PointBase は、二重引用符 (") で囲まれていない識別子の文字をすべて大文字に変換します。capture-schema ユーティリティで Oracle または PointBase からデータベーススキーマを取り込むとき、<code>-table</code> オプションの引数として小文字だけ (<code>-table student</code> など)、または大文字と小文字 (<code>-table Student</code> など) でテーブル名を指定すると、正しく処理されません。対応するテーブルのカラム情報を含まないデータベーススキーマファイルが生成されます。</p> <p data-bbox="239 1416 318 1439">解決法</p> <p data-bbox="239 1461 1032 1484">テーブル名はすべて大文字で指定してください (<code>-table STUDENT</code> など)。</p>

メッセージサービスとメッセージ駆動型 Beans

この節では、Java Message Service (JMS)、Sun ONE Message Queue、およびメッセージ駆動型 Beans の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4683029	<p>MQ Solaris/Microsoft Windows スクリプト内の -javahome フラグは、値に空白文字が含まれていると正しく機能しない</p> <p>Sun ONE Message Queue のコマンド行ユーティリティには、その他の Java ランタイムを指定する -javahome オプションが用意されています。このオプションを使用する際、Java ランタイムのパスに空白文字を含めることはできません。空白文字を含むパスの例を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Microsoft Windows の場合 : C:\jdk 1.4 • Solaris の場合 : /work/java 1.4 <p>この問題は、Sun ONE Application Server インスタンスの起動時に発生します。Sun ONE Application Server インスタンスを起動すると、デフォルトで、対応する Sun ONE Message Queue ブローカインスタンスが起動します。このブローカは、Sun ONE Application Server と同じ Java ランタイムを使用するため、-javahome コマンド行オプションを使って起動します。Sun ONE Application Server 用に設定された Java ランタイム (ブローカでも使用可能) のパスに空白文字が含まれていると、ブローカの起動に失敗します。このため、Sun ONE Application Server インスタンスの起動も失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server の Java ランタイムのパスに空白文字が含まれていないことを確認してください。</p>
4776785	<p>Linux で、Sun ONE Message Queue が高負荷で OutOfMemoryError 例外をスローする</p> <p>この例外は、Sun ONE Message Queue クライアントが Sun ONE Message Queue サーバーに要求を発信するというスレッドを作成すると、高負荷で発生します。Out of Memory 例外はログに表示されます。</p> <p>この問題は、スレッドに関する Linux 上でのシステムの強い制限値によって発生します。Linux オペレーティングシステムで作成できるスレッドの数は、各スレッドのスタックが必要とするスタックに分割して利用できる物理メモリーに制限されます。スタックサイズを減らすことは、不明な SIGSEGV ができてしまうだけでなく、OutOfMemory 例外が残ってしまう可能性があるため、良い解決法ではありません。</p> <p>解決法</p> <p>スタックサイズは最適値のままにして、負荷を減らしてください。</p>

Java Transaction Service (JTS)

この節では、Java トランザクションサービス (JTS) の既知の問題とその解決方法を示します。

復旧

JDBC ドライバの復旧に関する既知の問題があります。Sun ONE Application Server は、これらの問題に対していくつかの回避策を用意しています。デフォルトでは、ユーザーが明示的に指定しないかぎり、これらの回避策は使用されません。

- **Oracle(R) JDBC ドライバの問題 - Oracle XA Resource 実装の回復メソッドは、入力フラグとは関係なく、繰り返し同じ未確定 Xid のセットを戻します。** XA 仕様によると、トランザクションマネージャは、最初に `TMSTARTSCAN` を使って `XAResource.recover` を呼び出したあと、`TMNOFLAGS` を使って、Xid が戻されなくなるまで繰り返し `XAResource.recover` を呼び出します。

Sun ONE Application Server は、Oracle XA Resource の確認メソッドの問題に対する回避策も用意しています。この回避策を適用するには、`server.xml` ファイルの `transaction-service` サブ要素に次のプロパティを追加します。

```
oracle-xa-recovery-workaround
```

プロパティ値は必ず `true` に設定します。

- **Sybase JConnect 5.2 ドライバの問題 - JConnect 5.2 ドライバには、JConnect 5.5 では解決されている既知の問題があります。** JConnect 5.2 ドライバを使用する場合は、`server.xml` ファイルの `transaction-service` サブ要素に次のプロパティを追加して、復旧を有効にしてください。

```
sybase-xa-recovery-workaround
```

プロパティ値は必ず `true` に設定します。

トランザクション

`server.xml` ファイルでは、XA 接続と非 XA 接続の区別に `res-type` を使用します。これにより、データを駆動するデータソースの設定が識別されます。たとえば、Datadirect ドライバでは、同じデータソースを XA または非 XA として使用できます。

デフォルトでは、データソースは非 XA です。XA に指定してトランザクションの `connpool` 要素を付加するには、`res-type` が必要です。トランザクション内で `connpool` を正常に機能させるには、`server.xml` ファイルに次の `res-type` 属性を追加します。

```
res-type="javax.sql.XADataSource"
```


ID	要約
4689337	<p>非 txn コンテキストの XADatasource 接続は使用できない</p> <p>データベースドライバの既知の問題です。非 txn コンテキストの XADatasource 接続では、Autocommit がデフォルトで false に設定されます。</p> <p>解決法</p> <p>トランザクションではなく非 XA データソースクラスを使って、commit または rollback プログラムを明示的に呼び出します。</p>
4700241	<p>トランザクションのタイムアウト値をゼロ以外に設定するとローカルトランザクションの処理時間が長くなる</p> <p>現在のローカルトランザクションマネージャは、一定のタイムアウト値を持つトランザクションをサポートしません。transaction-service 要素の timeout-in-seconds 属性に 0 より大きい値を指定すると、すべてのローカルトランザクションがグローバルトランザクションとして処理されるため、処理時間が長くなります。さらに、データソースドライバがグローバルトランザクションをサポートしていないと、ローカルトランザクションは失敗します。タイムアウト値が 0 のとき、トランザクションマネージャは、データソースからの応答を無期限に待機します。</p> <p>解決法</p> <p>timeout-in-seconds の値をデフォルトの 0 に戻します。</p>

アプリケーションの配備

この節では、Sun ONE Application Server 7 の配備に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4703680	<p>EJB モジュールを (MDB とともに) 再配備すると、リソース競合例外がスローされる</p> <p>Microsoft Windows 2000 上の Sun ONE Studio 4 でメッセージ駆動型 Beans (MDB) を使用するとき発生する問題です。EJB モジュールに特定のキューを使用する MDB が含まれている場合、同じ EJB モジュールを (同じキューを使用する) 同じ MDB とともに再配備すると、リソースの競合が発生します。その結果、(変更済みの) モジュールを使用できなくなります。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4725147	<p data-bbox="239 286 1213 399">配備する仮想サーバーを選択できない</p> <p data-bbox="239 286 1213 399">この場合は、仮想サーバー 2 台をまったく同じように設定し、一方をホスト、もう一方をリスナーにします。アプリケーションが 2 台目の仮想サーバーだけに配備されている場合、この仮想サーバーにはアクセスできません。これは、host:port の組み合わせで 1 台目の仮想サーバーが指定されているからです。</p> <p data-bbox="239 425 314 449">解決法</p> <p data-bbox="239 468 1213 520">仮想サーバーのホスト名と元のホスト名が同じにならないようにしないでください。特に、同じ HTTP リスナーを使用する場合には注意が必要です。</p>
4734969	<p data-bbox="239 543 1213 567">Bean パッケージ内の Query クラスでアプリケーションを配備できない</p> <p data-bbox="239 590 1213 677">コンテナ管理持続 (CMP) の code-gen は、concreteImpl 内で JDO Query 変数の完全修飾名を使用しません。Query クラスが抽象 Bean と同じパッケージに格納されている場合は、コンパイルエラーが発生します。</p> <p data-bbox="239 694 314 718">解決法</p> <p data-bbox="239 737 749 763">Query クラスを別のパッケージに移動させます。</p>
4750461	<p data-bbox="239 786 1213 810">Solaris で、動的再読み込み時に Sun ONE Application Server がクラッシュする</p> <p data-bbox="239 833 1213 946">エンタープライズ Bean 数の多い大規模なアプリケーションを動的に読み込もうとすると、クラッシュが発生する場合があります。動的再読み込み機能は、開発環境で、アプリケーションのマイナーチェンジを迅速にテストするために使用されます。許可されているよりも多くのファイル記述子を使用しようとする、クラッシュが発生します。</p> <p data-bbox="239 963 314 987">解決法</p> <ol data-bbox="239 1015 1213 1067" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 1015 1213 1067">1. /etc/system ファイルに、形式を変えずに次の行を追加して、使用可能なファイル記述子の数を増やします。アプリケーションのサイズによって値を調節できます。<pre data-bbox="268 1085 549 1145">set rlim_fd_max=8192 set rlim_fd_cur=2048</pre><li data-bbox="239 1163 549 1189">2. システムを再起動します。

ID	要約
4744128	<p data-bbox="334 244 1133 265">EJB コンパイラで、内部クラス用の有効な Java コードを生成できない</p> <p data-bbox="334 291 1303 345">内部クラス型を戻すエンタープライズ Bean を実装する場合、EJB コンパイラは有効な Java コードを生成できません。</p> <pre data-bbox="334 366 1276 847">public interface IStateServer { public StateProperties getProperties(String objectID, String variantName, IToken securityToken) throws RemoteException; public class StateProperties implements Serializable { public StateProperties() { } public String description = ""; public String owner = ""; public Date modifyTime = new Date(); public String accessPermissions = ""; } } public interface IStateServerEJB extends EJBObject, IStateServer { }</pre> <p data-bbox="334 869 1068 890">メソッド <code>getProperties</code> は内部クラスを返すことに注意してください。</p> <p data-bbox="334 913 582 933">エラーの例を示します。</p> <pre data-bbox="334 960 1315 1013">D:\¥AppServer7a¥appserv¥domains¥domain1¥server1¥generated¥ejb¥j2ee-apps ¥smugglercom¥spss¥ssp¥state¥ejb¥StateServerEJB_EJBObjectImpl.java:133:</pre> <p data-bbox="334 1036 915 1057">内部クラスの合成名を直接使用することはできません。</p> <pre data-bbox="334 1065 1005 1086">com.spss.ssp.state.IStateServer\$StateProperties</pre> <p data-bbox="334 1112 629 1133">次のコードが生成されます。</p> <pre data-bbox="334 1142 1005 1163">com.spss.ssp.state.IStateServer.StateProperties</pre> <p data-bbox="334 1189 654 1209">次の内容は書き込まれません。</p> <pre data-bbox="334 1218 1005 1239">com.spss.ssp.state.IStateServer\$StateProperties</pre> <p data-bbox="334 1262 411 1282">解決法</p> <p data-bbox="334 1308 1110 1329"><code>StateProperties</code> を内部クラス以外の独立したクラスに移動させます。</p>

ID	要約
4756093	<p data-bbox="239 244 1206 302">配備済みアプリケーションを再配備すると、Sun ONE Application Server の再起動後、このアプリケーションは失敗する</p> <p data-bbox="239 324 1206 378">Sun ONE Application Server インスタンスの実行中にアプリケーションを再配備すると、このアプリケーションは失敗します。</p>
	<p data-bbox="239 401 315 423">解決法</p> <p data-bbox="239 446 1206 526">アプリケーションサーバーインスタンスを停止し、アプリケーションを再配備してから再起動します。アプリケーションサーバーの実行中でなければ、アプリケーションは何回でも再配備できます。</p>
4756981	<p data-bbox="239 548 1206 605">アプリケーションの動的再読み込みやアプリケーションの起動時に実行権の問題が発生する</p> <p data-bbox="239 628 1206 713">管理サーバーの所有者が <code>root</code> で、アプリケーションサーバーインスタンスの所有者がそれ以外のユーザーである場合、アプリケーションの動的再読み込みやアプリケーションの起動時に実行権の問題が発生します。</p>
	<p data-bbox="239 736 315 758">解決法</p> <p data-bbox="239 781 1206 861">モジュールやアプリケーションを (プリコンパイルオプション付き、またはオプションなしで) 配備 (再配備) したあと、ディレクトリの所有者を <code>root</code> からそれ以外のユーザーに変更します。所有者の変更は、次に挙げる各ディレクトリに再帰的に適用されます。</p> <p data-bbox="239 883 1058 906"><i>domain_root/server_instance/applications/j2ee-apps/application_name</i></p> <p data-bbox="239 913 1043 935"><i>domain_root/server_instance/applications/j2ee-modules/module_name</i></p> <p data-bbox="239 942 1051 965"><i>domain_root/server_instance/generated/ejb/j2ee-apps/application_name</i></p> <p data-bbox="239 972 1051 994"><i>domain_root/server_instance/generated/jsp/j2ee-apps/application_name</i></p> <p data-bbox="239 1001 1058 1024"><i>domain_root/server_instance/generated/jsp/j2ee-modules/module_name</i></p> <ol data-bbox="239 1046 929 1117" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 1046 596 1069">1. スーパーユーザーになります。<li data-bbox="239 1091 929 1117">2. 次のコマンドを使って、ディレクトリの所有者を変更します。 <pre data-bbox="239 1140 811 1163"># chown -R non_root_instance_owner directory_name</pre>

ベリファイア

この節では、ベリファイアに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4742545	<p>スタンドアロンベリファイアから EJB クラスが見つからないというエラーが報告される</p> <p>「EJB クラスが見つかりません」というテスト記述メッセージが表示されいくつかのテストに失敗することがあります。EJB JAR ファイルによって使用されるエンタープライズ Bean が、同一の EAR アプリケーション内の別の EJB JAR ファイル内にあるその他のエンタープライズ Bean を参照する場合、テスト時に障害が発生します。コネクタ (RAR) に依存する EAR ファイルを検証しようとした場合も、障害メッセージが表示されます。これは、RAR バンドルを、RAR バンドルファイルに依存するエンタープライズ Bean が格納されている EAR ファイル内にパッケージ化する必要がないからです。障害 (コネクタ関連の障害を除く) を報告するのは、スタンドアロンベリファイアだけです。配備コマンドや管理インタフェースによって呼び出されたベリファイアでは、この障害は報告されません。</p> <p>解決法</p> <p>アプリケーション EAR のパッケージ化が正しいことを確認します。ユーティリティ JAR ファイルを使用している場合は、EAR ファイル内にパッケージ化されます。参照エラーを解決するには、<code>asadmin</code> または管理インタフェースを使って配備バックエンドからベリファイアを呼び出します。コネクタ関連の障害が発生する場合は、ベリファイアのクラスパスに、必要なクラスを持つ JAR ファイルを配置します。<code>install_root/bin/verifier[.bat]</code> ファイルを開き、<code>JVM_CLASSPATH</code> 変数の末尾に <code>LOCAL_CLASSPATH</code> 変数を追加できます。<code>LOCAL_CLASSPATH</code> 変数にローカルでクラスを追加したあと、ベリファイアを実行します。</p>
4743480	<p>ベリファイアがローカルホームインタフェースのスーパーインタフェースで宣言されたメソッドを検出できない</p> <p>ベリファイアは、ローカルホームインタフェースが J2EE 仕様に準拠しているかどうかをテストします。ローカルホームインタフェースがスーパーインタフェースから派生したもので、必要なメソッドがスーパーインタフェースに宣言されている場合、<code>findByPrimaryKey</code> メソッドの一部のテストが失敗します。失敗したテストは、<code>HomeInterfaceFindByPrimaryKeyArg</code>、<code>HomeInterfaceFindByPrimaryKeyName</code>、<code>HomeInterfaceFindByPrimaryKeyReturn</code>、<code>PrimaryKeyClassOpt</code> という名前のテストによって実行されたものです。モジュールやアプリケーションで <code>-verify</code> オプションを使用すると、配備にも失敗します。</p> <p>解決法</p> <p>関数がローカルホームインタフェースのスーパーインタフェースに正しく宣言されている場合、テスト結果は無視してかまいません。この場合、配備コマンドに <code>-verify</code> オプションを指定しないでください。配備は正しく完了します。派生したホームインタフェース内に同じ関数を宣言すれば、検証は成功します。</p>

設定

- `java-config` 要素の `env-classpath-ignored` 属性のデフォルト値は `true`
- このリリースでは実装されない:
 - `server.xml` ファイルの `java-config` 要素の `bytecode-preprocessors` 属性 (将来のパフォーマンスパッチで提供される予定)
- このリリースでは推奨されない:
 - `is-cache-overflow-allowed`
 - `max-wait-time-in-millis`
- J2EE 1.4 アーキテクチャの変更により、将来のリリースではサポートされない要素がある:
 - `mdb-container` 要素の `cmt-max-runtime-exceptions` プロパティ

次の表に、Sun ONE Application Server 7 の設定に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
----	----

4742559 IPv6 を使用しないネットワークでは、この問題は適用されません。

注: IPv6 を使用しないネットワークでは、この問題は適用されません。

Sun ONE Application Server は、デフォルトで IPv4 を使用します。これは、Sun ONE Application Server を使用できるすべてのプラットフォームでサポートされています。特定のプラットフォームでは、IPv6 がサポートされています。このようなプラットフォームでは、Sun ONE Application Server の設定を変更する必要があります。

注: 設定を変更する場合は、プラットフォームで IPv6 が確実にサポートされることを確認してください。IPv4 しかサポートしないシステムに IPv6 関連の設定を適用すると、サーバーインスタンスが起動しなくなることがあります。

解決法

次の手順に従って設定を変更します。

1. 管理サーバーを起動します。
2. 管理インタフェースを起動します (ブラウザに HTTP ホスト名とポート名を指定し、管理サーバーに接続)。
3. IPv6 用に設定するアプリケーションサーバーインスタンスを選択します (server1 など)。
4. ツリービューで HTTP リスナーノードを展開します。
5. IPv6 用に設定する HTTP リスナーを選択します (http-listener1 など)。
6. 「一般」の「IP アドレス」フィールドの値を ANY に変更します。
7. 「詳細」の「ファミリー」フィールドの値を INET6 に変更します。

「ファミリー」フィールドの値を INET6 に変更しても、IP アドレスとして IPv6 アドレスを選択しないかぎり、IPv4 の機能は有効です。「IP アドレス」の値が ANY の場合、IPv4 と IPv6 の両方のアドレスが有効になります。

8. 「保存」をクリックします。
 9. 左側のペインで、サーバーインスタンスを選択します。
 10. 「変更の適用」をクリックします。
 11. 「停止」をクリックします。
 12. 「起動」をクリックします。サーバーが再起動し、変更内容が有効になります。
-

配備記述子

この節では、Sun ONE Application Server 7 配備記述子の既知の問題について説明します。

sun-cmp-mapping.xml の問題

- このリリースでは実装されない：
 - `check-modified-at-commit`
 - `lock-when-modified`

sun-ejb-jar.xml の問題

- このリリースでは推奨されない：
 - `is-cache-overflow-allowed`
 - `max-wait-time-in-millis`

監視

この節では、Sun ONE Application Server 7 の監視に関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4734595	<p>失敗した接続の合計数を確認するテストで、値が表示されない</p> <p>リファレンス実装 (RI) 内のダブルプーリングによって発生する問題です。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4737227	<p><code>http-server</code> で <code>FlagAsyncEnabled</code> の値が 1 に設定されない</p> <p>Sun ONE Web Server の既知の問題です。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4752199	<p data-bbox="334 244 1300 302">getPrimaryKey()、getEJBMetaData()、getHomeHandle() メソッドでは、監視 Bean メソッドの属性値が表示されない</p> <p data-bbox="334 324 1300 406">監視ツールで、エンタープライズ Bean 内の監視可能なメソッドを確認できます。getPrimaryKey()、getEJBMetaData()、getHomeHandle() メソッドについては、メソッドレベルの監視属性の値が常に 0 になります。</p> <p data-bbox="334 428 411 451">解決法</p> <p data-bbox="334 473 379 496">なし</p>

サーバーの管理

この節では、次のトピックを取り上げます。

- コマンド行インタフェース (CLI)
- 管理インフラストラクチャ
- 管理インタフェース

コマンド行インタフェース (CLI)

この節では、Sun ONE Application Server 7 のコマンド行インタフェースの既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4676889	<p data-bbox="239 260 1253 329">シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、オーバーフローが発生する</p> <p data-bbox="239 338 1253 407">UNIX(R) では、シングルモードで実行する CLI コマンドの文字数が 256 文字を超える場合、コマンドの実行に失敗し、次のエラーが表示されます。コマンドが見つかりません</p> <p data-bbox="239 416 1253 451">これは端末側の制限です。CLI の制限ではありません。</p> <p data-bbox="239 460 264 494">例</p> <pre data-bbox="239 503 1253 685">create-jdbc-connection-pool --instance server4 --datasourceuser admin --datasourcepassword adminadmin --datasourceclassname test --datasourceurl test --minpoolsize=8 --maxpoolsize=32 --maxwait=60000 --poolresize=2 --idletimeout=300 --connectionvalidate=false --validationmethod=auto-commit --failconnection=false --description test sample_connectionpoolid)</pre> <p data-bbox="239 694 321 729">解決法</p> <ol data-bbox="239 737 1253 885" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 737 1253 807">1. 実行するコマンドの文字数が 256 文字を超える場合は、マルチモードを使用してください。<li data-bbox="239 815 1253 885">2. シングルモードを使用する必要がある場合は、OpenWindows コマンドツール (cmdtool) を使ってコマンドを実行してください。
4680409	<p data-bbox="239 894 1253 963">SSL を使用するように設定したあと、CLI からブラウザクライアントからも管理サーバーにアクセスできない</p> <p data-bbox="239 972 321 1006">解決法</p> <p data-bbox="239 1015 1253 1145">SSL を使って管理サーバーにアクセスする各クライアントに Sun ONE Application Server 証明書をインポートし、この証明書を持ったサーバーが信頼できるサーバーであると規定します。証明書をインポートして信頼を獲得する方法は、ブラウザによって異なります。詳細については、ご使用のブラウザのオンラインヘルプを参照してください。</p> <p data-bbox="239 1154 1253 1223">CLI では、サーバーの証明書が servercert.cer ファイル内にあり、インストールディレクトリが /INSTALL である場合、次のコマンドを実行します。</p> <pre data-bbox="239 1232 1253 1293">keytool -import -file servercert.cer -alias server -keystore /INSTALL/jdk/jre/lib/security/cacerts</pre> <p data-bbox="239 1302 1253 1371">注: この問題の発生を防止するには、管理サーバーが SSL を使用するように設定する前に、サーバーとクライアントの両方に管理サーバーの証明書をインストールしておきます。</p>

ID	要約
4688386	<p data-bbox="334 244 1308 300">シングルモードの CLI コマンドでアスタリスク (*) を使用すると、予期しない結果になります。または、エラーメッセージが表示されます。</p> <p data-bbox="334 322 1308 435">アスタリスクは、シェルによって複数の名前リストに変換されます。コマンド行インタフェース (CLI) コマンドは、このリストの情報を受け取ります。複数の名前リストに変換されるのを防ぐには、アスタリスクを引用符で囲みます。この場合、CLI はアスタリスクそのものを受け取ります。</p>
	解決法
	アスタリスクを引用符または二重引用符で囲みます。
4701361	変更を繰り返し適用するとメモリー不足エラーになる
	管理サーバーは、メモリーを使用して、システムの全変更記録を保持しています。再設定を行うと、この変更記録 (変更内容自体ではない) は破棄され、メモリーが解放されます。
	解決法
	asadmin reconfig コマンドを定期的に行い、古い変更記録を破棄してください。
4704328	重複したドメインを作成する呼び出しに失敗したとき、クリーンアップが行われない
	既存のドメインと重複するドメインを作成すると、適切なエラーメッセージが生成されません。しかし、create-domain コマンドの -path オプションで指定されたディレクトリが作成されます (同じ名前のディレクトリが存在しない場合)。これを削除しないと、コマンドの実行に失敗します。
	解決法
	-path オプションによって作成されたと思われる余分な空ディレクトリをすべて削除します。
4708813	デフォルト (pointbase) 接続プール JDBC リソースを監視できない
	JDBC 接続プールは、オンデマンドで動的に作成されます。つまり、プールは初めて使用するときに作成されます。プールが作成されていない (使用されていない) 場合、監視を行うことはできません。
	解決法
	解決法はありません。

ID	要約
4722007	<p data-bbox="239 234 785 269">監視: 1 ミリ秒より短い実行時間を測定できない</p> <p data-bbox="239 286 1249 347">エンティティ Bean メソッドを監視しているとき、<code>execution-time-millis</code> 属性の値が -1 になります。たとえば、次のコマンドを実行するとします。</p> <pre data-bbox="239 364 1249 451">iasadmin>get -m server1.application.usecase1app.ejb-module.UseCase1Ejb_jar.entity-bea n.BeanOne.bean-method.method_create0.*</pre> <p data-bbox="239 468 485 494">次の属性が戻されます。</p> <pre data-bbox="239 512 1249 746">Attribute name = total-num-errors Value = 0 Attribute name = method-name Value = public abstract com.ipplanet.ias.perf.jts.UseCase1.ejb.BeanOneRemote com.ipplanet.ias.perf.jts.UseCase1.ejb.BeanOneHome.create() throws javax.ejb.CreateException, java.rmi.RemoteException Attribute name = total-num-calls Value = 0 Attribute name = total-num-success Value = 0 Attribute name = execution-time-millis Value = -1</pre> <p data-bbox="239 763 1249 876">監視を開始する前に、<code>execution-time-millis</code> のデフォルト値は -1 に設定されます。これは、その時点で属性値を無効にするためです。このように非常に低い値が設定されるのは、デフォルト値が 0 になっていると、すでに実行時間が測定されていたと誤って判断されるからです。</p> <p data-bbox="239 894 314 928">解決法</p> <p data-bbox="239 946 456 972">解決法はありません。</p>

ID	要約
4724743	<p data-bbox="334 244 933 265">asadmin reconfig コマンドフラグが誤って解釈される</p> <p data-bbox="334 291 1319 461">通常、asadmin オプションは true と false の 2 つを使って指定します。true を設定した場合、false を設定した場合とまったく逆の結果になります。これに対して、asadmin reconfig コマンドは、a) 手動での変更内容をチェックし例外をスローする、b) 手動での変更内容を保存する、c) 手動での変更内容を破棄するという 3 つの状態を処理します。このコマンドには、--keepmanualchanges と --discardmanualchanges の 2 つのオプションしかありません。この 2 つのオプションを、さまざまな組み合わせで使用できます。</p> <p data-bbox="334 484 1155 505">ここでは、その一部だけを紹介します。有効な組み合わせは次のとおりです。</p> <ol data-bbox="334 527 1172 1034" style="list-style-type: none"><li data-bbox="334 527 1172 600">1. discardmanualchanges=true --keepmanualchanges=false 意味: 手動での変更内容を破棄し、管理サーバーによる変更内容を採用する<li data-bbox="334 621 1172 694">2. discardmanualchanges=false --keepmanualchanges=true 意味: 手動での変更内容を保存し、管理サーバーによる変更内容を破棄する<li data-bbox="334 715 1172 788">3. discardmanualchanges=false --keepmanualchanges=false 意味: 手動での変更があった場合、例外をスローする<li data-bbox="334 808 658 881">4. discardmanualchanges 意味: 1 と同じ<li data-bbox="334 902 615 975">5. keepmanualchanges 意味: 2 と同じ<li data-bbox="334 996 568 1069">6. (オプションなし) 意味: 3 と同じ <p data-bbox="334 1055 1319 1111">無効な組み合わせは次のとおりです。この組み合わせを使用した場合、asadmin により、組み合わせが不正であるというメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="334 1133 1076 1199">--discardmanualchanges --keepmanualchanges --discardmanualchanges=true --keepmanualchanges=true</pre> <p data-bbox="334 1222 1319 1305">注: --discardmanualchanges=false オプションと --keepmanualchanges=true は等価ではありません。--discardmanualchanges=false を指定した場合、オプションを指定しないのと同じ結果になります。</p> <p data-bbox="334 1328 411 1348">解決法</p> <p data-bbox="334 1371 558 1392">解決法はありません。</p>

ID	要約
4733109	<p>コマンド行インタフェースで作成した持続マネージャファクトリリソースを表示しているとき、管理インタフェースにベリファイアのエラーが報告される</p> <p>コマンド行インタフェースで作成された持続マネージャファクトリリソースを管理インタフェースに表示しているとき、リソースに関する次のエラーが報告されます。</p> <pre>ArgChecker Failure:Validation failed for jndiName:object must be non-null</pre>
	<p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4742993	<p>Solaris で、Solaris に統合されている Sun ONE Application Server 上で flexanlg コマンドを使用すると、オープン障害が発生する</p> <p>Solaris オペレーティング環境に統合されている Sun ONE Application Server を実行している場合、/usr/appserver/bin から flexanlg コマンドを実行すると、オープン障害エラーが発生します。</p> <pre>ld.so.1:/usr/appserver/bin/flexanlg: fatal: libplc4.so: 開くことができませんでした: そのようなファイルまたはディレクトリはありません Killed</pre>
	<p>解決法</p> <p>次の手順を実行してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> LD_LIBRARY_PATH ファイルに次のエントリを追加します。 /usr/lib/mps flexanlg コマンドを実行します。 % /usr/appserver/bin/flexanlg
4750518	<p>ターゲット管理サーバー上で一部の CLI コマンドが動作しない</p> <p>ターゲット管理サーバーの CLI では、create、delete、list コマンドを使って、管理サーバーの server.xml ファイル内で新しい要素 (SSL、mime、プロファイラ、リソースなど) を作成、削除、一覧することができません。</p> <p>解決法</p> <p>管理サーバー内で要素を作成、削除、一覧するには、管理インタフェースを使用します。</p>

管理インフラストラクチャ

この節では、Sun ONE Application Server 7 の管理インフラストラクチャに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4676888	<p data-bbox="334 270 1239 288">Microsoft Windows 2000 で、JVM ヒープサイズが大きいと JVM を作成できない</p> <p data-bbox="334 319 1319 371">Windows 2000 で JVM ヒープサイズを大きくしようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <pre data-bbox="334 392 991 475">Error occurred during initialization of VM, Could not reserve enough space for object heap 内部エラー : unable to create JVM</pre> <p data-bbox="334 496 411 513">解決法</p> <p data-bbox="334 545 1296 597">Windows 2000 で、Sun ONE Application Server の JAVA ヒープサイズを大きくするには、Sun ONE Application Server の DLL を再設定 (rebase) する必要があります。</p> <p data-bbox="334 618 1319 756">Microsoft Framework SDK と Microsoft Visual Studio に付属している Rebase ユーティリティを使って、複数の DLL に、アドレスから始まる (JVM ヒープの可用性を向上させる) 最適なベースアドレスを設定できます。SDK Help Rebase トピックでは、アドレス 0x6000000 の使用を推奨しています。Rebase ユーティリティの詳細については、次の URL を参照してください。</p> <p data-bbox="334 777 1319 829">http://msdn.microsoft.com/library/default.asp?url=/library/en-us/tools/perfutil_2z39.asp</p> <p data-bbox="334 857 396 874">要件:</p> <ul data-bbox="334 902 1162 972" style="list-style-type: none"> • 2 ~ 4G バイトのメモリーを持つ Windows 2000 システム • Visual Studio または Microsoft Framework SDK の Rebase ユーティリティ <p data-bbox="334 992 1319 1045">Sun ONE Application Server の動的ライブラリに Rebase ユーティリティを適用するには、次の手順に従ってください。</p> <ol data-bbox="334 1065 1305 1211" style="list-style-type: none"> 1. 管理サーバーを含めて、すべての Sun ONE Application Server インスタンスをシャットダウンします。 2. <code>s1as_install_dir\lib</code> に移動します。 3. <code>rebase -b 0x6000000 *.dll application_specific_DLLs</code> <p data-bbox="334 1232 1290 1284">JVM オプションを使ってインスタンスディレクトリ内の <code>server.xml</code> ファイルを編集し、適切なヒープサイズを指定します。次に例を示します。</p> <pre data-bbox="334 1305 891 1357"><jvm-options> -Xms1024m </jvm-options> <jvm-options> -Xmx1024m </jvm-options></pre>

ID	要約
4686003	<p data-bbox="239 244 1228 378">HTTP の QOS 制限が適用されない</p> <p data-bbox="239 291 1228 378">サービス品質 (QOS) では、最大 HTTP 接続数と帯域幅を指定できます。これらの属性の制限値を超えると、クライアントに 503 エラーが戻されます。しかし、管理インタフェースを使って QOS を有効にすると、サーバーは QOS の制限を適用しなくなります。</p> <p data-bbox="239 395 314 418">解決法</p> <p data-bbox="239 440 1228 555">QOS 機能をすべて有効にするには、仮想サーバーの <code>obj.conf</code> ファイル内のデフォルトオブジェクトの先頭に <code>AuthTrans fn=qos-handler</code> 行を手動で追加します。qos-handler サーバーアプリケーション関数 (SAF) と <code>obj.conf</code> 設定ファイルについては、『Developer's Guide to NSAPI』を参照してください。</p>
4692673	<p data-bbox="239 578 1228 635">非デバッグモードで実行していたインスタンスをデバッグモードで再起動すると、失敗することがある</p> <p data-bbox="239 657 1228 798">「デバッグモードで起動または再起動」チェックボックスをオフにした状態でインスタンスを起動すると、このチェックボックスに関連した設定が機能しなくなります。たとえば、管理インタフェースで「デバッグを有効」チェックボックスを選択しても、チェックボックスはオンになりません。server.xml ファイルの <code>debug-enabled</code> 行の値も <code>false</code> になります (<code>debug-enabled=false</code>)。</p> <p data-bbox="239 821 314 843">解決法</p> <p data-bbox="239 866 464 888">解決法はありません。</p>
4699450	<p data-bbox="239 911 1228 968">Microsoft Windows 2000 で EAR ファイルを配備する際、生成されたファイルのパスの長さが全体で 260 文字を超えると失敗する</p> <p data-bbox="239 991 1228 1072">Windows 2000 では、Java 仮想マシン (JVM) の制限により、生成されたファイルのパス名は 260 文字以下と定められています。これは、JVM の Microsoft Windows サポートに関する問題であり、J2SE 1.5 リリースで修正される予定です。</p> <p data-bbox="239 1095 314 1117">解決法</p> <p data-bbox="239 1140 1228 1194">アプリケーションを配備するとき、パスとファイル名の文字数の合計が 260 文字以内に収まるようにします。</p>

ID	要約
4723776	SPARC で、SSL 対応の環境に移行すると、サーバーの起動に失敗する <p data-bbox="334 291 1315 435">証明書をインストールし、セキュリティを有効にしたあと、Sun ONE Application Server を再起動しようとするとう失敗します。サーバーがパスワードの受け取りに失敗したというメッセージが表示されます。「起動」ボタンを再度クリックすると、サーバーが起動します。SSL が有効になっていないと、パスワードがキャッシュに格納されず、再起動に失敗します。restart コマンドは、非 SSL モードから SSL モードへの移行をサポートしません。</p> <p data-bbox="334 456 1322 508">注：この問題は、サーバーを初めて再起動するときだけ発生します。2 回目以降の再起動は正常に行われます。</p> <p data-bbox="334 529 411 553">解決法</p> <p data-bbox="334 574 891 598">この問題が発生した場合は、次のように対処します。</p> <p data-bbox="368 619 725 644">「起動」ボタンをクリックします。</p> <p data-bbox="334 664 1308 689">この問題を回避するには、「再起動」ボタンをクリックする代わりに次の手順を実行します。</p> <p data-bbox="368 710 725 734">「停止」ボタンをクリックします。</p> <p data-bbox="368 737 725 762">「起動」ボタンをクリックします。</p>
4724780	別のシステムで作成されたドメインでは管理サーバーを起動できない <ul data-bbox="334 829 1315 991" style="list-style-type: none"><li data-bbox="334 829 1315 916">• PCNFS がマウントされたドライブで作成されたドメインでは、PCNFS ドライブに関する Microsoft の既知の問題により、管理サーバーとその他のインスタンスを起動できません。<li data-bbox="334 935 1315 991">• ディレクトリパスが異なっても、製品がインストールされているローカルドライブで作成されたドメインであれば、管理サーバーもインスタンスも正常に動作します。 <p data-bbox="334 1012 411 1036">解決法</p> <p data-bbox="334 1057 558 1081">解決法はありません。</p>
4734184	Microsoft Windows 2000 でコンソールが無効になることがある <p data-bbox="334 1149 1315 1236">まれに、配備時やコマンドの実行時に管理サーバーやアプリケーションサーバーインスタンスがハングアップすることがあります。この問題は、コンソールログのテキストが選択されている場合に発生します。テキストの選択を解除すれば、処理は続行します。</p> <p data-bbox="334 1256 411 1281">解決法</p> <p data-bbox="334 1302 1322 1387">log-service create-console 属性を false に設定して、server1 インスタンスのコンソール自動作成機能を無効にします。コンソールログ上でマウスボタンをクリックするか Enter キーを押しても問題を解決できます。</p>

ID	要約
4736554	<p>サーバーから安全な HTTP リスナーを削除したあとも、(もう存在しない)パスワードの入力を求めるプロンプトが表示される</p> <p>解決法</p> <p>サーバー全体を削除し、追加し直します。</p> <p>注: この問題の発生を防止するには、HTTP リスナーを削除する前に、次のコマンドを使ってセキュリティを無効化します。</p> <pre data-bbox="239 491 1196 661">/export2/build/bin/> asadmin set --user admin --password adminadmin server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=false Attribute securityEnabled set to false. /export2/build/bin/> asadmin delete-http-listener --user admin --password adminadmin ls2 Deleted Http listener with id = ls2</pre>
4737756	<p>Microsoft Windows 2000 で、コンソールにメッセージが正しく表示されない</p> <p>Windows 2000 の非英語ロケール (日本語ロケールなど) では、コンソールにメッセージが正しく表示されないことがあります。</p> <p>解決法</p> <p>管理インターフェースを使ってログメッセージを表示します。</p>

ID	要約
4739831	<p data-bbox="332 239 1353 300">インスタンスの一部が削除されていると、一部の CLI コマンドから正しい応答を得ることができない</p> <p data-bbox="332 317 1353 378">サーバーインスタンスの一部が削除されていると、一部の CLI コマンドで問題が発生します。以下に、問題とその解決方法を示します。</p> <ol data-bbox="332 395 1353 456" style="list-style-type: none"> 1. <code>create-instance</code> をローカルモードで実行すると、サブディレクトリが存在していない場合も、インスタンスフォルダ内にインスタンスが存在すると報告される <p data-bbox="332 473 411 499">解決法</p> <p data-bbox="332 517 1353 578">インスタンスディレクトリを手動で削除してから <code>create-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol data-bbox="332 595 1353 656" style="list-style-type: none"> 2. <code>list-instances</code> コマンドをローカルモードで実行すると、インスタンス名と状態情報が一部削除された状態で出力される <p data-bbox="332 673 411 699">解決法</p> <p data-bbox="332 716 1353 743">インスタンスディレクトリを手動で削除してから <code>list-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol data-bbox="332 760 1353 821" style="list-style-type: none"> 3. Microsoft Windows 2000 で、<code>start-instance</code> コマンドをリモートモードで実行すると、<code>null</code> 文字列が表示される <p data-bbox="332 838 411 864">解決法</p> <p data-bbox="332 881 1353 942">インスタンスディレクトリを手動で削除し、新しいインスタンスを作成してから <code>start-instance</code> コマンドを実行します。</p> <ol data-bbox="332 960 1353 1072" style="list-style-type: none"> 4. Microsoft Windows 2000 で <code>stop-instance</code> コマンドをローカルモードまたはリモートモードで実行すると、不正な例外が報告されます。ローカルモードでは、インスタンスが実行されていないという不正なメッセージが表示されます。リモートモードでは、<code>null</code> 文字列が表示されます。 <p data-bbox="332 1090 1353 1177">Solaris で、<code>stop-instance</code> コマンドをローカルモードで実行すると、実際には <code>config</code> というディレクトリは存在しないのに、インスタンスの <code>config</code> ディレクトリにアクセスするパーミッションがないというメッセージが表示される</p> <p data-bbox="332 1194 411 1220">解決法</p> <p data-bbox="332 1237 1353 1263">インスタンスディレクトリを手動で削除します。</p>
4739891	<p data-bbox="332 1286 1353 1373">仮想サーバーによって参照されるデフォルトの Web モジュールが存在しない場合、またはこのモジュールの配備が取り消された場合、仮想サーバーを削除しようとすると失敗する</p> <p data-bbox="332 1390 411 1416">解決法</p> <p data-bbox="332 1433 1353 1534">仮想サーバーの「デフォルト Web モジュール」フィールドの値を「何も選択されていません」に設定し、「了解」をクリックして変更内容を保存します。その後、仮想サーバーを削除します。</p>

ID	要約
4740022	<p data-bbox="239 244 1213 300">SNMP: 新しいインスタンスサーバーを追加して起動すると、END OF MIB メッセージが表示される</p> <p data-bbox="239 322 1213 378">インスタンスサーバーとサブエージェントをシャットダウンしないで新しいインスタンスを追加し、起動すると、END OF MIB メッセージが表示されます。</p> <p data-bbox="239 401 315 423">解決法</p> <ol data-bbox="239 446 1213 659" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 446 1213 557">1. 新しいインスタンスを表示するには、サブエージェントとすべてのインスタンスサーバープロセスをシャットダウンします。各サーバーで「監視」->「SNMP 統計収集を有効」を選択し、変更を適用します。その後、各インスタンスサーバーを再起動し、サブエージェントプロセスを1つだけ再起動します。<li data-bbox="239 579 1213 659">2. サブエージェントがすでに実行中の場合は、これ以上起動しないでください。Sun ONE Application Server をインストールするときは、必ずマスターエージェントとサブエージェントを1個ずつ使用します(全ドメイン、全インスタンスに共通)。
4737138	<p data-bbox="239 682 1213 737">Microsoft Windows Services や DOS プロンプトにライセンスの有効期限切れを示すメッセージが表示されない</p> <p data-bbox="239 760 1213 843">ライセンスの有効期限が切れたあと、Windows Services や DOS プロンプトコマンド (startserv.bat) を使ってサーバーを起動すると、ライセンスの有効期限切れを示すメッセージが表示されません。</p> <p data-bbox="239 866 1150 888">解決法 : CLI (asadmin) または Sun のプログラムアイコンからサーバーを起動します。</p>
4780488	<p data-bbox="239 907 1213 930">複数の obj.conf ファイルが存在すると混乱が生じる</p> <p data-bbox="239 953 1213 1124">新しい Sun ONE Application Server インスタンスを作成すると、<i>instance-dir/config/</i> ディレクトリに2つの obj.conf ファイルが入ります。1つは obj.conf という名前、もう1つは <i>virtual-server-name-obj.conf</i> という名前です。ここで、<i>virtual-server-name</i> は、インスタンス作成時に自動的に作成される仮想サーバーのインスタンス名と同じ値です。マニュアルには、「対象の仮想サーバーに関連する obj.conf ファイルの修正」とすべきところを、「obj.conf ファイルの修正」と記載されています。</p> <p data-bbox="239 1147 1213 1291">Sun ONE Application Server がインストールされているとき、obj.conf ファイルと <i>server1-obj.conf</i> ファイルは <i>/domains/domain1/server1/config/</i> ディレクトリに存在します。obj.conf という名前のファイルの内容は、仮想サーバーレベルで指定された <i>server1-obj.conf</i> ファイルの内容でオーバーライドされます。つまり、obj.conf という名前のファイルは Sun ONE Application Server インスタンスには使用されません。</p> <p data-bbox="239 1314 1213 1397">たとえば、Sun ONE Application Server passthrough プラグインの設定時に obj.conf という名前のファイルを修正した場合、間違った obj.conf ファイルが修正されたために設定した passthrough 設定が有効になりません。</p> <p data-bbox="239 1420 315 1442">解決法</p> <p data-bbox="239 1465 1213 1520">インスタンスの obj.conf ファイルを修正する必要がある場合は、プレフィックスに対象の仮想サーバー名が付いたファイルを修正してください。</p>

管理インタフェース

管理インタフェースを使用するときは、ブラウザがキャッシュからではなくサーバーから最新のページを取り出す設定になっているかどうかを確認してください。一般に、デフォルトのブラウザ設定では問題は発生しません。

- **Internet Explorer** では、「ツール」->「インターネットオプション」->「設定」を選択し、「保存しているページの新しいバージョンの確認」で「確認しない」が選択されていないことを確認します。
- **Netscape** では、「編集」->「設定」->「詳細」->「キャッシュ」->を選択し、「キャッシュにあるページとネットワーク上のページの比較」で「しない」が選択されていないことを確認します。

この節では、Sun ONE Application Server 7 の管理用グラフィカルユーザーインタフェースに関する既知問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4722607	<p>Microsoft Windows 2000 で、新しく作成された MIME ファイルに .types 拡張子が付いていないと、このファイル内のエントリを編集または削除できない</p> <p>Windows 2000 では、MIME ファイル名に必ず .types 拡張子を付けます。そうしないと、ファイル内のエントリを編集できません。MIME ファイル名は、mime2 ではなく mime2.types のようになります。</p> <p>解決法</p> <p>MIME ファイル名には必ず .types 拡張子を付けてください。</p>

ID	要約
4725473	<p data-bbox="239 239 1249 269">管理インタフェースのニックネームリストに外部証明書のニックネームが表示されない</p> <p data-bbox="239 286 1249 407">Sun ONE Application Server 管理インタフェースを使って外部証明書をインストールした場合、外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書を使って HTTP リスナーで SSL を有効にしようとするとう問題が発生します。証明書は正しくインストールされていますが、管理インタフェースに証明書のニックネームが表示されません。</p> <p data-bbox="239 425 314 454">解決法</p> <ol data-bbox="239 472 1249 633" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 472 1249 529">1. 管理ユーザーとして、Sun ONE Application Server のインストールマシンにログインします。<li data-bbox="239 546 1249 633">2. HTTP リスナーと外部暗号化モジュール上にインストールされた証明書をリンクします。 <code>asadmin</code> コマンドを実行します。 <code>asadmin</code> コマンドの詳細については、 <code>asadmin(1M)</code> のマニュアルページを参照してください。 <pre data-bbox="239 651 785 937">/sun/appserver7/bin/asadmin create-ssl --user admin --password <i>password</i> --host <i>host_name</i> --port 8888 --type http-listener --certname nobody@apprealm:Server-Cert --instance server1 --ssl3enabled=true --ssl3tlsciphers +rsa_rc4_128_md5 http-listener-1</pre> <p data-bbox="239 954 1249 1076">このコマンドは、証明書とサーバーインスタンスをリンクします。証明書のインストールは行いません (証明書のインストールには管理インタフェースを使用してインストール済み)。証明書と HTTP リスナーのリンクは確立されていますが、HTTP リスナーは非 SSL モードでリスンします。</p> <ol data-bbox="239 1093 1249 1154" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 1093 1249 1154">3. 次の CLI コマンドを使って、HTTP リスナーが SSL モードでリスンするように設定します。 <pre data-bbox="239 1171 1113 1345">/sun/appserver7/bin/asadmin set --user admin --password <i>password</i> --host <i>host_name</i> --port 8888 server1.http-listener.http-listener-1.securityEnabled=true</pre> <p data-bbox="239 1362 1249 1423">このコマンドは、サーバーインスタンスのリスンモードを非 SSL から SSL へ切り替えます。</p> <p data-bbox="239 1440 1249 1466">上記の手順が完了すると、管理インタフェースに証明書が表示されます。</p> <ol data-bbox="239 1484 1249 1519" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 1484 1249 1519">4. これで、管理インタフェースを使って HTTP リスナーを編集できる状態になりました。

ID	要約
4728718	<p data-bbox="334 244 1305 300">新しい仮想サーバーを作成し、ログファイルの場所を示す値を指定すると、「ファイルが見つかりません」というエラーが報告される</p> <p data-bbox="334 322 1129 347">管理インタフェースのログファイルフィールドでは、値を追加できません。</p> <p data-bbox="334 369 411 394">解決法</p> <p data-bbox="334 416 1305 472">作成した仮想サーバーをいったん削除し、必要なファイルを作成します。その後、再度仮想サーバーを作成します。</p> <p data-bbox="334 494 1305 539">注: この問題の発生を防止するには、新しい仮想サーバーを作成する前にログファイルを作成するようにします。</p>
4741123	<p data-bbox="334 562 1322 618">Solaris 9 アップデート 2 で、デフォルトのブラウザが Sun ONE Application Server 7 に対応していない</p> <p data-bbox="334 640 1322 696">デフォルトのブラウザで Sun ONE Application Server の管理インタフェースを使用しようとすると、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p data-bbox="334 718 805 743">Unsupported Browser:Netscape 4.78</p> <p data-bbox="334 765 1305 873">Sun ONE Application Server の管理インタフェースを実行するには、Netscape 4.79 または Netscape 6.2 以上へアップグレードすることをお勧めします。アップグレードしない場合、パフォーマンスが低下したり、管理インタフェースが正しく実行されない可能性があります。</p> <p data-bbox="334 895 411 920">解決法</p> <p data-bbox="334 942 1258 966">/usr/dt/bin/netscape ではなく /usr/dt/bin/netscape6 を使用してください。</p>
4750616	<p data-bbox="334 991 1322 1046">Netscape Navigator の一部のバージョンではアクセス制御リスト (ACL) の編集がサポートされない</p> <p data-bbox="334 1069 1322 1152">Netscape Navigator バージョン 6.x または 7.x の使用時に ACL エントリを編集しようとすると、ブラウザが表示されなくなる、ACL 編集画面が表示されないなどの問題が断続的に発生します。</p> <p data-bbox="334 1175 411 1199">解決法</p> <p data-bbox="334 1222 676 1246">次のいずれかの措置をとります。</p> <ul data-bbox="334 1269 1293 1369" style="list-style-type: none"><li data-bbox="334 1269 1008 1293">• サポートされている Netscape Navigator 4.79 を使用します。<li data-bbox="334 1315 1293 1369">• 手動で ACL ファイルを編集します。ACL ファイル形式の詳細については、『Sun ONE Application Server 管理者ガイド』を参照してください。

ID	要約
4752055	Netscape 4.8 を使用すると、管理インタフェースに警告メッセージが表示される Netscape 4.8 を使って管理インタフェースにアクセスすると、Netscape 4.8 はサポートされていないブラウザであるという警告メッセージが表示されます。Netscape 4.8 で管理インタフェースを実行しても問題は確認されていませんが、より徹底したテストが必要とされています。 解決法 引き続き管理インタフェースを使用する場合は、警告メッセージの「継続」リンクを選択します。 Netscape 4.79 を使用するか、Netscape 6.2 にアップグレードします。
4760714	「証明書インストール」画面に無効な「ヘルプ」ボタンが表示される 「証明書インストール」画面には、入力された証明書情報が一覧表示されます。管理インタフェースのこの画面に無効な「ヘルプ」ボタンが表示されます。このボタンをクリックすると、ヘルプページが見つからないというエラーメッセージが表示されます。コンテキストヘルプを使用するには、ページ上部の「ヘルプ」リンクをクリックする必要があります。 解決法 コンテキストヘルプを使用するには、ページ上部の「ヘルプ」リンクをクリックします。
4760939	SSL: 「証明書ニックネーム」に certutil によって生成された自動署名証明書が表示されない 自動署名証明書が certutil によって生成されていると、管理インタフェースに「証明書ニックネーム」が表示されません。 解決法 自動署名証明書を使用する場合は、server.xml ファイルを手動で編集する必要があります。

Sun ONE Studio 4 プラグイン

この節では、Sun ONE Studio 4, Enterprise Edition (旧称 Forte for Java) の既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4689097	<p>Sun ONE Studio 4 によって使用されるディレクトリのパスに空白文字があるとエラーが発生する</p> <p>ディレクトリ構造に空白文字が含まれていると、Sun ONE Studio 4 が正常にインストールされません。インストーラはインストールパスの空白文字をチェックし、発見するとエラーダイアログを表示します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Application Server の Sun ONE Studio 4 コンポーネントのインストールディレクトリを指定するときは、空白文字を使用しないでください。</p>
4720145	<p>デバッガへの接続中に ConnectionException がスローされる</p> <p>新しいデバッグセッションを作成するかどうかを確認するメッセージが繰り返し表示され、例外がスローされます。</p> <p>解決法</p> <p>IDE を再起動します。</p>
4727932	<p>FFJ で MAD 環境を使用すると副作用が発生する</p> <p>Sun ONE Studio 4 で MAD 設定を使用すると、断続的に副作用が発生します。</p> <p>解決法</p> <p>Sun ONE Studio 4 では MAD 設定を使用しないでください。</p>
4733794	<p>アプリケーションノードに適用した ejb-name の変更を配備できない</p> <p>アプリケーションノードのコンテキストメニュー (右クリックメニュー) から「EJB 名を表示」を選択したときに表示されるダイアログを使って、アプリケーションのコンテキストで Bean の ejb-name 要素を変更できます。これらの変更は、パッケージ化の一環として作成された alt-dd に適用されます。名前の変更は Sun ONE Application Server の alt-dd には伝達されません。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4745283	<p data-bbox="239 244 1222 300">管理クライアントだけをインストールした場合、アプリケーションクライアントを実行できない</p> <p data-bbox="239 322 1222 406">管理クライアントまたは Sun ONE Studio プラグインだけをインストールした場合、アプリケーションクライアントを実行できません。アプリケーションクライアントは、管理クライアントとは別のパッケージです。</p> <p data-bbox="239 428 315 451">解決法</p> <p data-bbox="239 473 1222 588">アプリケーションクライアントパッケージをインストールします。このためには、<code>SUNONE_INSTALL_ROOT/bin</code> に格納されている <code>appclient</code> を使って完全インストールを実行するか、Sun ONE Application Server がインストールされているリモートマシンから <code>appclient</code> パッケージを取得します。</p> <p data-bbox="239 611 858 633"><code>appclient</code> パッケージを取得する方法は次のとおりです。</p> <ol data-bbox="239 656 1222 1067" style="list-style-type: none"><li data-bbox="239 656 1222 753">1. <code>SUNONE_INSTALL_ROOT/bin/package-appclient [.bat]</code> を実行します。 <code>SUNONE_INSTALL_ROOT/lib/appclient/appclient.jar</code> に <code>appclient.jar</code> ファイルが生成されます。<li data-bbox="239 775 1222 890">2. Sun ONE Application Server がインストールされていないリモートマシンに <code>appclient.jar</code> を配備し、<code>appclient.jar</code> を <code>unjar</code> します。アプリケーションクライアントライブラリと JAR ファイルが格納されているアプリケーションクライアントディレクトリが作成されます。<li data-bbox="239 913 1222 1027">3. <code>appclient.jar</code> ファイルに格納されている <code>bin/appclient</code> スクリプトを編集します。スクリプトを初めて使用する前に編集を済ませておいてください。<code>%CONFIG_HOME%</code> 文字列は <code>asenv.conf</code> の実際のパス (Windows 2000 の場合は <code>asenv.bat</code>) で置き換えられます。<li data-bbox="239 1050 1222 1067">4. <code>asenv.conf</code> (Microsoft Windows の場合は <code>asenv.bat</code>) を次のように設定します。 <pre data-bbox="239 1090 1092 1229">%AS_INSTALL%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT %AS_JAVA%=Your_Installed_Java_Home %AS_IMQ_LIB%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/imq/lib %AS_ACC_CONFIG%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/config/sun-acc.xml %AS_WEBSERVICES_LIB%=APPCLIENT_INSTALLED_ROOT/lib</pre> <p data-bbox="239 1251 1222 1366">注: <code>appclient.jar</code> ファイルは、このファイルが作成されたマシンと同じオペレーティングシステムを実行しているリモートマシンから実行しなければなりません。たとえば、Solaris プラットフォームで作成された <code>appclient.jar</code> は、Windows 2000 上では機能しません。</p> <p data-bbox="239 1388 1115 1411">詳細については、<code>package-appclient</code> のマニュアルページを参照してください。</p>

ID	要約
4748351	<p data-bbox="334 244 862 265">キーカラムがキーフィールドにマップされない</p> <p data-bbox="334 291 1319 345">CMP Beans を含む EJB モジュールを配備する際、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。</p> <p data-bbox="334 368 1319 451">キーフィールドに対する次の主キーカラムをマップしてください： TABLE_NAME.PRIMARY_KEY_COLUMN_NAME。これらのカラムにマップされているフィールドがすでにある場合は、それらがキーフィールドであることを検証してください。</p> <p data-bbox="334 473 1033 494">この問題は、プラグインのタイミングの問題によって発生します。</p> <p data-bbox="334 517 411 538">解決法</p> <p data-bbox="334 560 1043 581">Bean のキークラスまたはキーフィールドを次のように変更します。</p> <ol data-bbox="334 604 1285 951" style="list-style-type: none"><li data-bbox="334 604 991 624">1. エクスプローラウィンドウで Bean のノードを選択します。<li data-bbox="334 647 1285 769">2. 主キークラスのプロパティを編集します。<ol data-bbox="368 699 1285 769" style="list-style-type: none"><li data-bbox="368 699 1285 720">a. プロパティエディタで、キーフィールドとして既存の別のフィールドを選択します。<li data-bbox="368 743 1119 763">b. ダイアログの「了解」ボタンをクリックして、変更を受け付けます。<li data-bbox="334 786 1285 907">3. 主キークラスのプロパティの値をリセットします。<ol data-bbox="368 838 1285 907" style="list-style-type: none"><li data-bbox="368 838 1285 859">a. プロパティエディタで、キーフィールドとして既存の元のフィールドを選択します。<li data-bbox="368 881 1119 902">b. ダイアログの「了解」ボタンをクリックして、変更を受け付けます。<li data-bbox="334 925 991 946">4. 「ファイル」メニューから「すべてを保存」を選択します。
4725779	<p data-bbox="334 968 1182 989">事前に設定された Sun ONE 固有のプロパティ値がエディタに表示されない</p> <p data-bbox="334 1015 1319 1098">Sun ONE Application Server に配備するためにすでに設定された RAR ファイルがある場合、プロパティシートでこのファイルのプロパティ値を確認しようとすると、デフォルトの値だけが表示されます。sun-ra.xml ファイルに指定された値は表示されません。</p> <p data-bbox="334 1121 411 1142">解決法</p> <p data-bbox="334 1168 1319 1222">RAR から Sun 固有の記述子 XML ファイルを抽出し、RAR と同じディレクトリに置きます。これで、s1as 記述子を編集できるようになります。</p> <p data-bbox="334 1244 1319 1328">注：この方法でファイルを編集しても、RAR ファイルの元のコンテンツは変更されません。ただし、サーバーに送信された RAR ファイルには、更新された XML ファイルの内容が追加されます。</p>

ID	要約
4733794	<p>アプリケーションノードに適用した EJB 名の変更を配備できない</p> <p>アプリケーションノードのコンテキストメニュー (右クリックメニュー) から「EJB 名を表示」を選択したときに表示されるダイアログを使って、アプリケーションのコンテキストで Bean の <code>ejb-name</code> 要素を変更できます。これらの変更は、パッケージ化の一環として作成された <code>alt-dd</code> に適用されます。名前の変更は Sun ONE Application Server の <code>alt-dd</code> には伝達されません。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

サンプルアプリケーション

- ANT ディレクトリ構造とともにサンプルアプリケーションソースが用意されています。ただし、Sun ONE Studio 用のアプリケーションではないので、EJB モジュールなどのアイコンは表示されません。サンプルの `src` フォルダをマウントすると、ソースファイルだけが表示されます。
- Sun ONE Studio は ANT 対応ですが、ANT ターゲットを使ってサンプルアプリケーションを配備することはできません。つまり、ANT `target = all` コマンドの実行結果と、シェルから `ant all` コマンドを実行したときの結果は同じにはなりません。
- 既存の ANT 型アプリケーションは、Sun ONE Studio (Sun ONE Studio の ANT) を使って正常にコンパイルできます。

この節では、Sun ONE Application Server 7 のサンプルアプリケーションに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4714439	<p>PetStore では、すでに存在するユーザーを重複して追加することができない</p> <p>PetStore サンプルアプリケーションでは、すでに存在するユーザーを追加しようとする、画面にスタックトレースが表示されます。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

ID	要約
4726161	<p data-bbox="334 244 986 267">変更されたサンプルは、再配備しないかぎり更新されない</p> <p data-bbox="334 289 1315 345">ファイルに少しの変更を加えてアプリケーション再パッケージ化したあと、同じサンプルを繰り返し配備しようとする、次のエラーメッセージが表示されます。</p> <p data-bbox="408 368 661 390" style="text-align: center;">"Already Deployed"</p> <p data-bbox="334 413 1315 522">これは、ほとんどのサンプルに影響を及ぼす問題で、これらのサンプルが Ant ユーティリティと <code>common.xml</code> ファイルを使用するためです。このユーティリティとファイルには <code>deploy</code> ターゲットがあるため、リソースの登録によるアプリケーションが混在した配備になります。</p> <p data-bbox="334 545 411 567">解決法</p> <p data-bbox="334 590 676 612">次のいずれかの措置をとります。</p> <p data-bbox="334 635 1308 690">Ant ユーティリティの <code>build.xml</code> ファイルを使用するサンプルアプリケーションの多くには <code>common.xml</code> ファイルが含まれており、この場合は次のコマンドを入力します。</p> <pre data-bbox="334 713 636 736">% asant deploy_common</pre> <p data-bbox="334 758 1129 781">その他のすべてのアプリケーションの場合は、次のコマンドを入力します。</p> <pre data-bbox="334 803 565 857">% asant undeploy % asant deploy</pre>
4733412	<p data-bbox="334 880 1315 902">サンプルアプリケーションコンバータの Web モジュール内に余計な JAR ファイルがある</p> <p data-bbox="334 925 1315 1008">コンバータアプリケーションの <code>WEB-INF/lib</code> ディレクトリ内に、余計なステートレスコンバータ EJB JAR ファイルがあります。EAR ファイルは、サンプルアプリケーションディレクトリ内にあります。バンドル版の Solaris ビルドでは、次の場所にあります。</p> <pre data-bbox="334 1031 1315 1085">/usr/appserver/samples/ejb/stateless/converter/stateless-converter.ear</pre> <p data-bbox="334 1107 1315 1216">このファイルを抽出して、<code>stateless-converter</code> という名前の Web モジュールの <code>WEB-INF/lib</code> ディレクトリに移動すると、余計な JAR ファイルが見つかります。この JAR ファイルは、EJB モジュールを呼び出すすべての Web モジュールに適用されます。問題の原因は、アプリケーションのビルド時に使用する <code>common.xml</code> ファイルにあります。</p> <p data-bbox="334 1239 411 1262">解決法</p> <p data-bbox="334 1284 1272 1307">解決法はありません。サンプルアプリケーションの実行時の機能には影響はありません。</p>

ID	要約
4739854	<p data-bbox="239 244 818 267">asadmin を使ったリソースの配備方法の説明がない</p> <p data-bbox="239 291 1225 347">一部のサンプルのマニュアルには、<code>asadmin</code> コマンドを使ってアプリケーションを配備するようにと記述されているだけで、必要なリソースを作成する手順が記載されていません。</p> <p data-bbox="239 369 315 392">解決法</p> <p data-bbox="239 414 1225 498"><code>asadmin</code> コマンドを使ってアプリケーションまたはリソースを配備できます。サンプルの <code>build.xml</code> ファイルからは詳細情報を取得できます。詳細情報は、<code>asant deploy</code> の実行結果からも確認できます。</p> <p data-bbox="239 520 1225 604">JDBC/BLOB の例の場合、次の手順で、<code>asadmin</code> を使ってリソースを作成します。なお、ホスト名は <code>jackiel2</code> とします。管理サーバーのユーザー名、パスワード、ポートは、それぞれ <code>admin</code>、<code>adminadmin</code>、<code>4848</code> とします。</p> <pre data-bbox="239 621 1225 899">asadmin create-jdbc-connection-pool --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin jdbc-simple-pool --datasourceclassname com.pointbase.jdbc.jdbcDataSource --instance server1 asadmin set --port 4848 --host jackiel2 --password adminadmin --user admin server1.jdbc-connection-pool.jdbc-simple-pool.property.DatabaseName=j dbc:pointbase:server://localhost/sun-appserv-samples</pre>
4747534	<p data-bbox="239 921 1225 977">lifecycle-multithreaded サンプルアプリケーションでは、管理ユーザーのパスワードを 8 回も入力しなければならない</p> <p data-bbox="239 999 1225 1083"><code>asant deploy</code> コマンドを使ってサンプルアプリケーションファイル <code>lifecycle-multithreaded.jar</code> を配備する場合、管理ユーザーのパスワードを 8 回入力する必要があります。</p> <p data-bbox="239 1105 315 1128">解決法</p> <p data-bbox="239 1150 462 1173">解決法はありません。</p>

ID	要約
4748535	<p data-bbox="334 244 711 265">その他のサンプルファイルの問題</p> <ol data-bbox="334 291 1300 407" style="list-style-type: none"><li data-bbox="334 291 1225 312">1. Logging サンプルの 4 番目のログオプションで複数のログファイルが生成される<li data-bbox="334 338 1153 359">2. Logging サンプルには余計な log.properties ファイルが含まれている<li data-bbox="334 385 1300 406">3. サンプルのマニュアルに記載されているセキュリティに関する説明が一部間違っている <p data-bbox="334 432 411 453">解決法</p> <ol data-bbox="334 479 1300 529" style="list-style-type: none"><li data-bbox="334 479 1300 529">1. ハンドラを閉じてから削除します。GreeterServlet.java 内の initLog() メソッドを参照してください。 <pre data-bbox="334 552 891 808">private void initLog(String log_type) { //Remove all handlers Handler[] h = logger.getHandlers(); for (int i = 0; i < h.length; i++) { h[i].close(); //must do this logger.removeHandler(h[i]); } ... }</pre> <p data-bbox="334 835 1300 885">さらに、append オプションを指定してファイルハンドラを開きます。GreeterServlet.java 内の addHandler() メソッドを参照してください。書き込み:</p> <pre data-bbox="334 907 972 928">Handler fh = new FileHandler(log_file, true);</pre> <p data-bbox="334 951 654 972">次の内容は書き込まれません。</p> <pre data-bbox="334 994 891 1015">Handler fh = new FileHandler(log_file);</pre> <ol data-bbox="334 1043 1300 1262" style="list-style-type: none"><li data-bbox="334 1043 1300 1189">2. build.xml ファイルを次のように編集します。<pre data-bbox="334 1090 1190 1189">< fileset dir="\${src.docroot}" excludes="cvs,annontation"/> > <fileset dir="\${src.docroot}" excludes="cvs,annontation,log.properties"/></pre><li data-bbox="334 1211 1300 1262">3. 「Running the Sample Application」の節で、server.policy ファイルにセキュリティ許可エントリを追加する方法の説明から domains/domain1/ を除去します。

ID	要約
4752731	<p>PointBase 4.3 の PointBase 4.4 への置き換え</p> <p>サンプルとともに PointBase をダウンロードし、インストールする手順の説明 (http://hostname:port/samples/docs/pointbase.html) に、PointBase 4.3 という記述があります。正しくは PointBase 4.4 です。</p> <p>解決法</p> <p>「Update Samples Ant Files」の節では、pbtools43.jar ファイルと pbclient43.jar ファイルの代わりに pbtools44.jar ファイルと pbclient44.jar ファイルを使用してください。</p> <p>「Starting PointBase」の節は、UNIX プラットフォーム上に個別にダウンロードし、インストールする PointBase について説明しています。ここで、PointBase の起動には、<code>pointbase_install_dir/tools/server/start_server</code> を使用してください。</p>

ORB/IIOP リスナー

この節では、Sun ONE Application Server 7 の ORB/IIOP リスナーに関する既知の問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4743366	<p>server.xml ファイル内の iiop-listener 要素の address 属性には ANY を指定できない</p> <p>デフォルトの設定では、Sun ONE Application Server の iiop-listener 要素のアドレス値は 0.0.0.0 です。このデフォルト設定は、IPv6 インタフェース上でリッスンしません。システムの IPv4 インタフェース上でリッスンするだけです。iiop-listener の address 要素の値を ANY にすると、サーバーはシステム上の全インタフェース (IPv4 または IPv6) でリッスンできますが、この機能はサポートされていません。</p> <p>server.xml ファイル内の iiop-listener 要素の address 属性値を ANY にすると、システムの全インタフェース上でのリッスンが可能になり、IPv4 インタフェースと IPv6 インタフェースが両方ともサポートされます。</p> <p>解決法</p> <p>IPv4 インタフェースでも IPv6 インタフェースでも、iiop-listener 要素の address 値には「:::」を指定してください。この方法は、Solaris 8.0 以上にのみ適用可能です。</p>

ID	要約
4743419	<p>IPv6 アドレスの DNS アドレス検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは RMI-IIOP クライアントが機能しない</p> <p>IPv6 アドレスの DNS 検索が失敗する場合、IPv6 アドレスでは、RMI-IIOP (Remote Method Invocation-Internet Inter-ORB Protocol) のクライアントが機能しません。</p> <p>解決法</p> <p>IPv6 アドレスを検索できるように、配備サイトに DNS (Domain Name Service) を設定します。</p>

ローカライズ (l10n)

この節では、Sun ONE Application Server 7 のローカライズに関する問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4757859	<p>システムのデフォルトのエンコーディングが UTF-8 ではない場合、コンソールの出力が壊れる</p> <p>システムのデフォルトのエンコーディングが UTF-8 ではない場合、Sun ONE Application Server の出力で複数バイト文字が正しく表示されないことがあります。</p> <p>解決法</p> <p>server.log ファイルをブラウザで開いてください。</p>
4763655	<p>アプリケーションまたはシステムが UTF-8 エンコーディングを使用していないとき、「イベントログを表示」の「表示するエントリタイプ」フィールドの値が正しく表示されない</p> <p>ユーザーが「表示するエントリタイプ」フィールドに複数バイト文字を入力してイベントログを検索すると、検索結果が表示されるときに「表示するエントリタイプ」フィールドの値が正しく表示されません。この問題は、UTF-16 から UTF-8 へのメッセージ形式の変換によって発生します。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>

国際化 (i18n)

この節では、Sun ONE Application Server 7 の国際化に関する問題とその解決方法を示します。

ID	要約
4802703	<p data-bbox="239 418 899 444">Sun Linux で、Input Method Engine が自動的に起動しない</p> <p data-bbox="239 465 1220 522">ユーザーが日本語 (ja_JP) ロケールにログインするとき、デフォルトの IME (Input Method Engine) は自動的に起動しません。</p> <p data-bbox="239 543 314 569">解決法</p> <p data-bbox="239 590 1220 647">IME を CD からインストールします。IME がインストールされたあとで、ログインのたびに次のようにして IME を起動する必要があります。</p> <ol data-bbox="239 668 1220 807" style="list-style-type: none">1. IME デーモンを起動します。2. XMODIFIER 環境変数を設定します。3. Sun ONE Application Server アセンブリツールなどの目的の Java アプリケーションを起動して、IME と接続します。
4802706	<p data-bbox="239 828 849 854">Sun Linux の JDK で日本語のフォントが見つからない</p> <p data-bbox="239 874 1220 960">この問題は、ja_JP.EUCJP ロケールの場合に GNOME Desktop で発生します。JDK で日本語のフォントが見つからず、日本語の文字 (watanabe-mincho) が正しく解釈されないため、ユーザーは日本語の文字を入力できません。</p> <p data-bbox="239 980 1220 1095">RedHat Linux では、日本語のフォントが /usr/X11R6/lib/X11/fonts/TrueType にあるため、この問題は発生しません。Sun Linux では、/usr/X11R6/lib/X11/fonts/truetype にあるため、JDK が日本語フォントを見つけられません。</p> <p data-bbox="239 1116 314 1142">解決法</p> <p data-bbox="239 1163 868 1189">次のコマンドを使用してシンボリックリンクを作成します。</p> <pre data-bbox="239 1209 796 1258">ln -s /usr/X11R6/lib/X11/fonts/truetype /usr/X11R6/lib/X11/fonts/TrueType</pre>

マニュアル

この節では、Sun ONE Application Server 7 のマニュアルに関する既知の問題とその解決方法を示します。

『Sun ONE Application Server 開発者ガイド』の「ライフサイクルリスナーの開発」の章に誤った記述があります。

ライフサイクルモジュールが Beans を検索する必要がある場合は、READY_EVENT 内で実行できる。

正しい記述は次のとおりです。

ライフサイクルモジュールがリソースを検索する必要がある場合は、READY_EVENT 内で実行できる。

ID	要約
4735625	<p>オンラインヘルプのプロファイラページの GUI の使用方法に関する説明が不十分</p> <p>プロファイラは、プロファイラページから「JVM 設定」を選択すると起動しますが、オンラインヘルプでの説明が不十分です。「追加」または「保存」ボタンでも同じことができます。「削除」ボタンでは、プロファイラではなく JVM オプションだけが削除されます。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4740476	<p>オンラインヘルプにベリファイアとプリコンパイル JSP に関する説明がない</p> <p>オンラインヘルプの「Web アプリケーションを配備」ページに、ベリファイアとプリコンパイル JSP に関する説明が記載されていません。</p> <p>解決法</p> <p>解決法はありません。</p>
4742620	<p>asadmin ユーティリティのマニュアルで、配備コマンドの説明に誤りがある</p> <p>解決法</p> <p>正しい説明は次のとおりです。upload オプションが false に設定されている場合、配備可能なファイルの場所はサーバーマシン上の絶対パスで指定します。</p>

ID	要約
----	----

4720171 インデックス付き配備ディレクトリの使用方法を説明したマニュアルがない

配備済みアプリケーションのディレクトリ名のナンバリングスキーマ部分は、開発者が配備済みアプリケーションに関連付けられた JAR ファイルやクラスファイルを変更するときに使用するインデックス機構として実装されています。Microsoft Windows プラットフォームでは、このインデックス機構が重要な役割を果たします。Microsoft Windows プラットフォームでは、読み込み済みのファイルを上書きしようとするとき共有違反エラーが発生するため、読み込み済みのファイルはロックされます。ファイルは、セッションの起動時にサーバーインスタンスや IDE に読み込まれます。共有違反エラーが発生した場合、次のいずれかの措置をとります。

- 更新されたクラスファイル (元々は JAR ファイルの一部) をコンパイルし、古いクラスよりも先に読み込まれるようにクラスパス内に配置します。次に、Sun ONE Application Server を使ってこのアプリケーションを再読み込みします (再読み込みが有効な場合)。
- JAR ファイルを更新し、新しい EAR ファイルを作成して、アプリケーションを再配備します。

注: Solaris プラットフォームでは、ファイルロックの制約がないため、アプリケーションを再配備する必要はありません。

解決法

IDE の設定、ANT ファイルのコピー、コンパイルその他の操作を行うために Microsoft Windows プラットフォーム上の配備済みアプリケーションに変更を加えるときは、ファイルロックの制約を回避するため、新しく作成されるディレクトリのインデックス番号が増分する点に注意してください。次に例を示します。Solaris プラットフォームでは、J2EE アプリケーション helloworld は、次のディレクトリ構造で Sun ONE Application Server に配備されます。

```
appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_1
```

さらに、この配備済みアプリケーションの一部をなすサーブレット (HelloServlet.java など) に変更が加えられます。Sun ONE Studio IDE が起動し、このサーブレットのソースファイルが変更され、コンパイルされます。このとき、javac ターゲットには上記のディレクトリが設定されされます。ソースのコンパイル結果が適切な場所に格納されていれば、このアプリケーションの再読み込みファイルが存在しています。また、server.xml の再読み込みフラグは true に設定されています。サーバーインスタンスの実行時は、アプリケーションを再アセンブルして再配備しなくても変更内容が有効になります。

Microsoft Windows プラットフォームでは、ファイルロックの問題により、JAR ファイルやクラスファイルの交換や更新は行えません。この場合、次のいずれかの措置をとります。

- ソースの変更を有効にするには、変更済みソースファイルをコンパイルし、クラスパス内のクラスファイルまたは JAR ファイルを挿入します。
- helloworld ソースに変更を加え、アセンブルし、再配備します。以前に配備した helloworld はそのままにしておきます。

2 番目のオプションは、配備済みアプリケーションのディレクトリ名に付加されている増分されたインデックス番号を使用します。したがって、こちらの方式のほうが優先されます。2 番目の helloworld の配備のあと、ディレクトリ構造は次のようになります。

```
appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_1
appserv/domains/domain1/server1/applications/j2ee-apps/helloworld_2
```

2 番目の helloworld は helloworld_2 の下に配備されます。

ID	要約
4766638	Sun ONE Studio 4 プラグインのインストール方法がマニュアルに記載されていない <p data-bbox="334 291 1322 435">Sun ONE Studio 4 プラグインは、Studio のユーザーディレクトリまたはインストールディレクトリにインストールできます。ユーザーディレクトリにインストールした場合、ユーザーディレクトリを削除するとプラグインモジュールもアンインストールされます。Sun ONE Studio 4 プラグインのインストール先を決定するには、Sun ONE Studio 4 プラグインのさまざまなインストール方法を把握しておく必要があります。</p> <p data-bbox="334 456 408 479">事例 1:</p> <p data-bbox="334 499 1315 583">Sun ONE Application Server のインストーラが、Studio のインストールディレクトリにプラグインをインストールします。Studio のユーザーディレクトリを削除しても、プラグインモジュールに影響はありません。</p> <p data-bbox="334 604 408 626">事例 2:</p> <p data-bbox="334 647 1315 730">Sun ONE Application Server インストーラが、Studio のユーザーディレクトリにプラグインをインストールするように指定します。Studio のユーザーディレクトリを削除すると、プラグインモジュールも削除されます。</p> <p data-bbox="334 751 408 774">事例 3:</p> <p data-bbox="334 795 1315 878">Studio の更新センターを使って、Studio のユーザーディレクトリにプラグインをインストールします。Studio のユーザーディレクトリを削除すると、プラグインモジュールも削除されます。</p> <p data-bbox="334 899 1289 956">注 : Sun ONE Application Server インストーラは、Sun ONE Studio 4 プラグインをインストールするときに 1 回だけ使用できます。その後、このオプションは無効になります。</p>

問題の報告方法

ご使用のシステムに問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でカスタマサポートにお問い合わせください。

- 次のオンラインサポート Web サイトをご利用ください。

<http://www.sun.com/supporttraining/>

- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

サポートのご依頼の前に、次の情報を用意してください。サポート担当がお客様の問題を解決するために必要な情報です。

- 問題が発生した箇所や動作への影響など、問題の具体的な説明
- マシン機種、OS バージョン、および、問題の原因と思われるパッチやそのほかのソフトウェアなどの製品バージョン
- 問題を再現するための具体的な手順の説明
- エラーログやコアダンプ

詳細情報

Sun ONE に関する有用な情報は、インターネット上の次の URL で参照できます。

- Sun ONE の製品およびサービス情報

<http://jp.sun.com/service/sunps/sunone/index.html>

- Sun ONE 開発者情報

<http://jp.sun.com/software/sundev>

- Sun ONE 研修ソリューション

<http://wws.sun.com/software/training/>

- Sun ONE 製品データシート

<http://jp.sun.com/software/>

- Sun Microsystems の製品文書 :

<http://docs.sun.com/>

- Sun ONE Application Server の製品文書 :

<http://docs.sun.com/db/coll/1044.1?l=ja>

改訂履歴

この節では、Sun ONE Application Server 7、Standard Edition 製品の初期リリース以降のリリースノートに加えられた変更の一覧を示します。

改訂日	変更内容
2002 年 10 月	初期リリース
2002 年 12 月 4 日	<p>「サーバーの起動とシャットダウン」(バグ ID 4780076) を追加。 「データベースドライバ」(バグ ID 4707531) を追加。 「管理インタフェース」(バグ ID 4780488) を追加。</p> <p>「サーバー管理」(バグ ID 4722007) の改訂: タイトルと解決法を変更。 「サンプルアプリケーション」(バグ ID 4726161) の改訂: 説明と解決法を変更。</p>
2003 年 1 月 6 日	「ローカライズ」(バグ ID 4757859 および 4763655) を追加。
2003 年 1 月 22 日	<p>Sun Linux のサポートを追加。</p> <p>現在入手可能な『Developer's Guide to J2EE Features and Services』(英語のみ) の説明を追加。</p> <p>Windows のパッチユーティリティの使用手順を削除 (適用不可になったため)。</p> <p>Linux の「インストール」(バグ ID 4805912) を追加。 Linux の「データベースドライバ」(バグ ID 4804378) を追加。 Linux の「メッセージサービス」(バグ ID 4776785) を追加。 Sun Linux の「国際化」(バグ ID 4802555、4802703、4802706) を追加。</p> <p>PointBase に関連するバグ ID 4724612 は、Solaris と Linux の両方に適用される。</p> <p>「改訂履歴」の節を追加。</p>

